平成25年11月10日発行　毎月1回10日発行　第66巻第11号

日本消防

●第21回全国女性消防操法大会
●平成25年度　防火ポスターコンクール審査結果

消防団120年

11
2013

日本消防　CONTENTS

2013 11
Vol.66 No.11

口　絵　第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会　H25.10.30(水)～31(木)　飛騨･世界生活文化センター
平成25年秋の叙勲伝達式（消防関係）　H25.11.7（木）　於　ニッショーホール
平成25年秋の褒章伝達式（消防関係）　H25.11.13（水）　於　スクワール麹町

巻頭言「女性消防団活動の活性化に向けて」…… (一財)熊本県消防協会　会長　米村　昌昭 …… 1
日消の動き「消防団支援･地域防災力強化のための新法」 …… (財)日本消防協会　会長　秋本　敏文 …… 3
第21回全国女性消防操法大会 …… (財)日本消防協会 …… 4
災害活動報告「平成25年7月28日萩市東部豪雨災害活動報告」
…… 山口県萩市消防団　総括団長　山根　勝美 ……11
災害活動報告「平成25年8月発生、土砂災害活動報告」… 秋田県仙北市消防団　団長　佐藤　生治 ……14
「消防団の店」現地ルポ－薩摩川内市消防団「消防団サポート事業所」を訪ねて－
…… リスクコミュニケーター　長谷川　祐子（元在日米海軍司令部　予防課長）……16
特別表彰「まとい」を受章して「町の元気は消防団から発信する」
…… 辰野町消防団　団長　古村　幹夫 ……20
東西南北（奈良)「住民の生命と財産を守り安心・安全な地域づくり」
…… 広陵町消防団　団長　山村　森夫 ……22
東西南北（東京)「我がまち大田区を4消防団が連携して守る」 …… 大森消防団　団長　當麻　善健 ……24
東西南北（鳥取)「みんなで支え合い助け合う地域防災の要として」
…… 若桜町消防団　団長　山根　勝 ……26
シンフォニー（富山県)「子供から高齢者までの防災」
…… 富山市消防団大沢野方面団　大沢野女性分団　分団長　吉岡　佳津子 ……28
シンフォニー（長崎県)「地域のためにできること」
…… 長崎県波佐見町消防団　女性消防団員　尾崎　絵里子 ……30
消防団活動事例「昭島市消防団消防署隊と連携した危険物火災対応訓練の実施」
…… 昭島市消防団　団長　小山　雅生 ……32
平成25年秋の褒章（消防関係） …… 総務省消防庁 ……35
婦人（女性）防火クラブ活動の紹介と参加の呼びかけ …… 総務省消防庁　防災課 ……37
西東京消防少年団　高齢者施設を慰問 …… 西東京消防署　防災安全係　山﨑　里美 ……38
頑張れ！少年消防クラブ（静岡県）活動から学んだ貴重な経験
…… 磐田市立豊岡南小学校少年消防クラブ ……39
平成25年度防火ポスターコンクール審査結果 …… 生活協同組合　全日本消防人共済会 ……40
消防団120年特別企画「大日本消防」表紙絵 …… (財)日本消防協会 ……42
「東日本大震災で殉職した消防団員等の遺児」の修学支援のために寄付のご協力をお願いします。
…… (公財)消防育英会 ……43
うちの名物団員 ……44
消防団の広場（山口県)「星降るまち」の女性分団として
…… 下松市消防団　女性分団　分団長　西村　久美江 ……46

編集後記

表紙写真説明

「談山神社」

談山神社（たんざんじんじゃ）は、開運・袋区のお宮であり、文化の改新発祥の地の神社です。祭神は藤原鎌足（談山大明神・談山権現）。神仏分離以前は、寺院であり、多武多武峯寺或いは多武峯妙楽寺という名称であった。

撮影　杉森　正行　（奈良県桜井市）

第19回 全国女性消防団員活性化ぎふ大会

日時：平成25年10月30日（水）～31日（木）
場所：「飛騨・世界生活文化センター」

ご来場ありがとうございました。
千葉でお会いしましょう。

平成25年秋の叙勲伝達式（消防関係）

平成25年11月７日（木）　　於　ニッショーホール

平成25年秋の褒章伝達式（消防関係）

平成25年11月13日（水）　　於　スクワール麹町

巻頭言

「女性消防団活動の活性化に向けて」

(一財)熊本県消防協会　会長　米村　昌昭

はじめに、10月の台風26号により被災されました皆様方に、心から哀悼の意を表するとともに心よりお見舞い申し上げます。本県におきましても、平成24年７月12日に発生した九州北部豪雨災害では、23人の尊い人命が失われ、未だ２人の方が行方不明となっております。また、被害は、阿蘇・熊本を中心に規模も甚大かつ広域にわたっており、様々な分野に深刻な影響を与えました。

県下消防団においても、延べ８千７百人以上が出動し土砂崩れ発生現場での救助活動や行方不明者の捜索、浸水家屋の復旧などに懸命の努力を続けました。また、災害発生直後に福岡市・長崎県・山口県・愛媛県の消防・防災ヘリに出動いただき、行方不明者の捜索活動などにあたっていただきました。誠にありがとうございました。私も被災現地に赴き、驚くべき惨状を目の当たりにし、自然災害の怖さをまざまざと見せつけられました。また、活動する団員の中には自宅や車が浸水した者もおりましたが、住民の安全・安心を守るため消防団活動を優先して従事する姿に、改めて誇らしく、頼もしく感じるとともに、「自らの地域は自らで守る」私どもの果たす役割を痛感しました。

このような中、日本消防協会をはじめ、全国から見舞金や消防服の援助、電報など賜り、この書面をお借りして改めて、お礼と感謝を申し上げます。現在、現地では様々な課題を抱えながらも、復旧・復興を目指して懸命に努力を続けております。

本県では、このように度々大きな災害が発生しますが、災害が発生した場合、地域に密着し、昼夜を問わず即時に対応する消防団員の数は、全国に見られるように本県においても年々減少の傾向にあります。一方、女性消防団員については、現在、県内13市21町村が女性隊（分団）を組織し、その数は600人を超え、この10年間で倍増しました。これは、平成19年に熊本市で、「第13回全国女性消防団員活性化熊本大会」が開催されたのを機に、各消防団で、「女性消防団員１団10人運動」を展開したことが大きいと思われます。

このような状況下で、女性消防団は、災害時の炊き出しや、予防啓発などの後方支援に加え、防災対策や災害対応の担い手としての役割がますます大きくなってきています。こうしたことから、当協会では女性消防団活動の活性化に向けて、「熊本県女性消防操法大会」及び「熊本県女性消防団活性化セミナー」を開催し、今日まで定期的に続けています。

まず、熊本県女性消防操法大会は、女性消防隊の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に、全国に先駆け、平成21年から女性だけの軽可搬ポンプ操法大会を実施し今年で３回目の開催となります。

出場チームも年々増加し、今年の大会では15チームが出場しました。当日は、あいにくの雨模様で最悪のコンディションでしたが、どのチームも操法を中止することなく、これまでの厳しい訓練に耐え抜いた素晴らしい成果を発揮してくれました。また、回を重ねる毎にチーム間での競い合いもますます激しくなってきました。さらに、訓練や大会の準備・運営を通じて、男性消防団員や地元消防本部職員とのコミュニケーションも図られてきているようでした。

そして、県大会での優勝チームは全国大会への出場となります。これまで、全国大会に出場した本県のチームは、再三上位入賞を果たし、第19回及び第20回の全国大会では本県代表の「美里町女性消防隊」が、また、本年の第21回大会では「菊池市女性消防隊」が連続して準優勝に輝きました。今日、火災現場に出動する女性消防団がある中で、本県女性消防団の操法技術は確実にレベルアップしております。

なお、出場した女性消防団員へのアンケートでは、「団員の団結力や士気の向上が図られた」・「今後とも定期的に開催していくべきだ」との回答が最も多い結果となっています。

次に、熊本県女性消防団活性化セミナーは、団員の情報交換などを行い、その活動を活性化することを目的に、平成22年から開催し今年は第４回目となります。開催にあたっては、まず各団の代表者会議を開き、その会議でセミナーの内容や運営方法を協議しますが、会議では、議題のほかに各団間での情報交換が盛んに行われ、しばしば会議の時間を超過しております。

昨年の第３回セミナーでは、男性団員も含め約220人が参加し、日頃の活動報告や体験発表・防火啓発劇などが行われました。このように活動報告の場を設けることで、他の団の活動に刺激され、さらにオリジナルな活動を実施しようとそれぞれの団で、色々な工夫が見られるようになってきました。また、活動では、団員手作りのグッズなども登場して、女性ならではのパワーを感じています。

参加者へのアンケートでは、「参考になった・役に立った」・「いろいろな活動内容があって面白い、感心した」との回答が多く寄せられ、中には「男性団員にも、このような活動例や成功事例を勉強する場があって良い」との意見もありました。

以上のとおり、本県の女性消防団活動の活性化に向けた現状を紹介しました。「継続は力なり」と言いますが、これらの事業を県全体で取り組み、定期的に重ねることで、活性化が図られていると思っております。

そして、県行政においても、平成24年度から熊本県消防学校において女性団員を対象とした教育課程が創設され、活性化に向けた取組が進められました。受講生は、地域における消防防災のリーダーとして活躍してくれることでしょう。

終わりに、当消防協会は、現在、一般財団法人への移行期間であり、当面公益目的支出計画の中での運営となります。そのため、更なる事業の展開は難しい面がありますが、大会実施後の評価を重ね「今年の大会は前回よりも良いものに」との思いで、引き続き熊本県女性消防操法大会・熊本県女性消防団活性化セミナーの両方を開催していきたいと考えております。私のこれまでの消防団活動の経験からしても、女性消防団の活動が活性化すれば、必ず消防団全体が活性化することは間違いありません。

今後とも、日本消防協会をはじめ関係者の皆様方のご支援・ご指導をよろしくお願いします。

日消の動き

「消防団支援・地域防災力強化のための新法」

㈶日本消防協会　会長　秋本　敏文

東日本大震災の厳しく、つらい体験は当面する課題を明らかにし、これからの消防のあり方に多くの教訓を残しました。日消では、これらをいかした今後の消防防災体制のあり方について、平成24年２月、「意見」を決定し、関係方面に要請しました。そのなかで、具体的な施策を実現するためにも、「地域総合防災力整備推進法」といった新しい法律を制定することを提言しました。

東日本大震災の経験で明らかになった課題はいくつもありますが、特に消防団の場合、装備が全体としてあまりにも劣悪であることが問題です。日消がまとめた消防団の活動記録「消防団の闘い」には、装備以前というような問題がたくさん出ています。安全靴でなく自家用のゴム長でガレキの中を動きまわっているうちに、ゴムは切れ、釘を踏み抜いたこと、水も食料も燃料もなく、食事なし、暖房なしで仮眠したことなど。通信機器は極めて重要ですが、ロクに整備されていなくて、町内会が買ってくれていたトランシーバーが役に立ったという事例もありました。双方向の無線機があれば、津波に関する新しい正確な情報を住民の皆さんに伝えることができ、もっと避難を早めることができたのではないでしょうか。

また、地域住民の皆さんの行動についても反省点があります。津波警報がでていても、どうせ大したことはないと言って避難しない人が多かったそうですが、危険に対してもっと厳しい意識をもち、助け合って早く行動するようにしておけば助かった方もおられたようです。地域の皆さんの防災に対する関心をもっと高め、日頃から勉強したり、一緒に訓練したりして、いざという時には速やかに必要な行動をとる、これは地域の防災力、減災力を高めることになります。

このように、装備の改善などで消防団の充実を進め、また地域にあっては消防団が中心になって地域の防災力を強化することが、東日本大震災の経験を踏まえたこれからの消防防災体制のあり方として大事だということ、そして、これを国民的な目標として共有しながら、いろいろな施策を集中的に実施していく、そのため、このことを明らかにする新しい法律を制定する、これを日消として提言したのです。その後あまり具体的な動きがなかったのですが、報道されていますように、最近、議員立法による実現への動きが見られるようになりました。これを書いている時点では結果は出ていませんが、正面から消防団の重要性を明らかにし、その支援の方向を打ち出す法律はこれまでに例がありませんので、これが実現すれば、消防団120年の記念にもなる快挙です。何とかしたいですね。

第21回全国女性消防操法大会

㈶日本消防協会

平成25年10月17日（木）神奈川県横浜市消防訓練センターにおいて第21回全国女性消防操法大会（消防庁、財団法人日本消防協会主催）を開催いたしました。

前日までの台風26号の影響で大会リハーサルを中止する等の処置をとり、前日の計画を大幅に変更し迎えた大会当日、澄み切った青空が選手団を迎え入れてくれました。

この大会は２年に１回開催されるもので、各都道府県を代表する女性消防隊47隊が出場し、日頃の訓練成果を披露しました。

また、横浜市消防音楽隊の演奏と奈良市消防団広報指導分団やまとなでしこ隊のアトラクション（消防広報活動）で大会は華やかに開催されました。

1　開会式

選手団入場行進

日本消防協会旗入場

開会宣言
（比嘉トモエ　沖縄県女性防火クラブ連絡協議会会長）

内閣総理大臣優勝旗返還
（第20回優勝隊　岡山県真庭市）

主催者挨拶（伊藤忠彦　総務大臣政務官）

主催者挨拶（秋本敏文　日本消防協会会長）

来賓祝辞（大江秀敏　全国消防長会会長）

歓迎あいさつ（大場茂美　横浜市副市長）

競技上の注意（髙尾和彦　消防大学校校長）

選手宣誓
（岡山県笠岡市女性消防隊　松田津多子隊長）

選　手　宣　誓

宣誓

東日本大震災から２年７ヶ月がたち、今も復興が進む中、今大会は岩手県・宮城県・福島県とともに47全都道府県代表の女性消防隊が今、こうして名誉あるこの舞台に立てることに幸せを感じています。

今日まで支えて下さった地域、職場の方々、指導して下さった方々、応援に駆け付けてくれた掛け替えのない消防団の仲間たち、そして家族に感謝し、その恩返しとともに、長い訓練の中で苦楽を共にした仲間と培ってきた消防精神と最高のチームワークで正々堂々と操法をすることを誓います。

平成25年10月17日
選手代表　岡山県　笠岡市女性消防隊
隊長　松田　津多子

2　操法競技

操法競技は、午前10時40分から開始。２コースに別れ白熱した訓練が披露された。

操法開始報告
（山口洋枝　島根県女性防火・防災クラブ連絡協議会会長）

審査開始報告
（総括責任者　渡邉審査員）

指揮者による操法開始報告

各隊員準備「よし」

操法開始（ポンプ準備・ホース延長）

１番員筒先結合

二重巻きホース延長

標的に向かって放水

放水停止報告

操法終了報告

3　横浜市消防音楽隊とポートエンジェルス119

力強いフォーメーションを使ったダイナミックなグランドパフォーマンス2013をご披露いただきました。

4　アトラクション（消防広報活動）

操法競技終了後、奈良県奈良市消防団広報指導分団やまとなでしこ隊のみなさんによるアトラクションでは、危険から身を守る動きを体得できる「ちびっ子防災体操」、救命講習の流れを体得できる「やまとなでしこ体操」が披露され、ご来賓、選手、応援団がコース上で一体となって女性大会ならではの雰囲気に包まれました。

アトラクション！　準備完了

コース上に整列

さあー　ご一緒に

「グラグラ♪地震だ」

楽しいひと時

「反応確認１・２・３・４」

手作り動画映像でも「やまとなでしこ体操」

ご当地キャラクターも応援に駆けつけました。

5　表彰式、閉会式

第21回全国女性消防操法大会　優勝隊

宮城県　大和町女性消防隊

内閣総理大臣表彰（優勝隊）

日本消防協会会長表彰（優勝隊）

消防庁長官表彰（準優勝隊：２隊）
静岡県　湖西市女性消防隊

日本消防協会会長表彰（準優勝隊：２隊）
熊本県　菊池市女性消防隊

日本消防協会会長表彰（優秀賞隊：３隊）

日本消防協会会長表彰（優良賞隊：６隊）

優秀選手表彰（10名）

万歳三唱
神奈川県消防協会　大島英治　会長

国旗降納

閉会宣言
（木沢トモ子　栃木県婦人（女性）防火クラブ連合会会長）

第21回全国女性消防操法大会出場順

出場順	1　コ　ー　ス		2　コ　ー　ス	
	本　部　席　側		応　援　席　側	
	都道府県	消防隊名称	都道府県	消防隊名称
1	広島県	広島市安佐南女性消防隊	愛知県	みよし市女性消防隊
2	福井県	嶺北女性消防隊	沖縄県	浦添市女性消防隊
3	滋賀県	守山市女性消防隊	東京都	町田市女性消防隊
4	香川県	高松市女性消防隊	茨城県	常総市女性消防隊
5	山口県	和木町女性消防隊	山形県	庄内町女性消防隊
6	新潟県	五泉市女性消防隊	岐阜県	下呂市女性消防隊
7	奈良県	大和郡山市女性消防隊	富山県	富山市女性消防隊
8	鹿児島県	指宿市女性消防隊	千葉県	浦安市女性消防隊
9	愛媛県	八幡浜市女性消防隊	熊本県	菊池市女性消防隊
10	神奈川県	宿河原町会婦人消防隊	秋田県	大仙市女性消防隊
11	京都府	綾部市女性消防隊	長野県	南箕輪村女性消防隊
12	石川県	子浦女性消防隊	福岡県	太宰府市女性消防隊
13	和歌山県	田辺市女性消防隊	埼玉県	毛呂山町女性消防隊
14	大阪府	泉大津市女性消防隊	群馬県	太田市女性消防隊
15	福島県	棚倉町女性消防隊	徳島県	阿波市女性消防隊
16	鳥取県	鳥取市女性消防隊	三重県	津市美杉女性消防隊
17	大分県	日出町女性消防隊	栃木県	足利市女性消防隊
18	宮崎県	西都市女性消防隊	山梨県	都留市女性消防隊
19	静岡県	湖西市女性消防隊	佐賀県	基山町女性消防隊
20	長崎県	新上五島町女性消防隊	岩手県	遠野市婦人消防隊
21	岡山県	笠岡市女性消防隊	北海道	登別市女性消防隊
22	青森県	おいらせ町百石女性消防隊	島根県	吉賀町女性消防隊
23	宮城県	大和町女性消防隊	兵庫県	丹波市女性消防隊
24	高知県	中土佐町女性消防隊		

第21回全国女性消防操法大会成績順位表

順　位	都道府県	消　防　隊　名	総合得点	タ イ ム（秒）
優　勝	宮城県	たいわちょうじょせいしょうぼうたい 大和町女性消防隊	89.5	50.78
準優勝	静岡県	こさいしじょせいしょうぼうたい 湖西市女性消防隊	81.5	55.63
準優勝	熊本県	きくちしじょせいしょうぼうたい 菊池市女性消防隊	79	53.58
優秀賞	埼玉県	もろやままちじょせいしょうぼうたい 毛呂山町女性消防隊	78	56.81
優秀賞	岐阜県	げろしじょせいしょうぼうたい 下呂市女性消防隊	77	53.88
優秀賞	千葉県	うらやすしじょせいしょうぼうたい 浦安市女性消防隊	77	54.83
優良賞	鳥取県	とっとりしじょせいしょうぼうたい 鳥取市女性消防隊	77	57.6
優良賞	東京都	まちだしじょせいしょうぼうたい 町田市女性消防隊	77	57.68
優良賞	佐賀県	きやまちょうじょせいしょうぼうたい 基山町女性消防隊	76	55.9
優良賞	長野県	みなみみのわむらじょせいしょうぼうたい 南箕輪村女性消防隊	75.5	57.04
優良賞	島根県	よしかちょうじょせいしょうぼうたい 吉賀町女性消防隊	75	59.02
優良賞	北海道	のぼりべつしじょせいしょうぼうたい 登別市女性消防隊	74.5	56.56

第21回全国女性消防操法大会優秀選手

番員	コース	都道府県	消防隊名	選手名
指揮者	1	鳥取県	とっとりしじょせいしょうぼうたい	あだち　のりこ
			鳥取市女性消防隊	安達　典子
	2	島根県	よしかちょうじょせいしょうぼうたい	ながやす　ますみ
			吉賀町女性消防隊	永安　真澄
1番員	1	宮城県	たいわちょうじょせいしょうぼうたい	かわばた　ゆりこ
			大和町女性消防隊	河端　有里子
	2	北海道	のぼりべつしじょせいしょうぼうたい	もとやま　りさ
			登別市女性消防隊	本山　梨沙
2番員	1	宮城県	たいわちょうじょせいしょうぼうたい	ちさか　きょうか
			大和町女性消防隊	千坂　京香
	2	山梨県	つるしじょせいしょうぼうたい	おまた　まみ
			都留市女性消防隊	小俣　真美
3番員	1	静岡県	こさいしじょせいしょうぼうたい	おおた　かよ
			湖西市女性消防隊	太田　香代
	2	東京都	まちだしじょせいしょうぼうたい	いいじま　こと
			町田市女性消防隊	飯島　こと
4番員	1	福島県	たなぐらまちじょせいしょうぼうたい	もんま　さゆり
			棚倉町女性消防隊	門馬　さゆり
	2	福岡県	だざいふしじょせいしょうぼうたい	もとだ　まゆみ
			太宰府市女性消防隊	元田　真由美

災害活動報告

「平成25年7月28日 萩市東部豪雨災害活動報告」

山口県萩市消防団　総括団長　山根　勝美

1　はじめに

平成25年７月28日の記録的豪雨により発生した萩市東部の豪雨災害で、不幸にも亡くなられた方（未だ行方不明者が１名）のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の方々および被災されました多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

また、この災害に際しまして、被災直後から毎日全国各地から多くのボランティアの方々や、日本消防協会及び国・県の関係機関をはじめとして県内外の各種団体の皆様方の多大なるご支援、ご協力をいただき、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

2　萩市の紹介

萩市は、平成17年３月６日に、萩市、川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の１市２町４村が合併し誕生しました。当市は、山口県の北部に位置し、総面積は698.79㎢で、県土の11.4％を占めます。北部は日本海に面し、東部は益田市及び津和野町（島根県）、阿武町、南東部は山口市、西部は長門市及び美祢市に接しています。

地形は、全体として東部の中国山地から北西部の日本海に向かう傾斜地で、南部市境界付近に標高700mを超える山々が連なっています。低地は少なく、二級河川の阿武川河口部に形成された三角州にある市街地とその周辺地に見られ、丘陵地は、田万川地域から須佐地域にかけての臨海部に比較的なだらかに広がっている程度で、大半を山地が占めています。

日本海の沖あいには、大島、相島、櫃島、羽島、肥島、尾島の六つの平らな火山島が浮かび、はるか40㎞先には見島があります。そのうち見島、大島、相島、櫃島は有人島です。

気候は、沿岸部においては対馬海流の影響を受けて比較的温暖であり、中山間部においては盆地特有の気候で、変化に富んだ豊かな自然環境を有しています。

3　消防団の現況

萩市消防団は、合併前の７市町村の消防団の統合を行い「新萩市消防団」が発足しました。現在の萩市消防団の体制は、合併前の７市町村ごとに方面団を設け、54分団、団員1,180人（うち女性団員数84人、定数1,401人）からなり、消防ポンプ車28台、小型動力ポンプ付き積載車42台、小型動力ポンプ28台を保有し、それぞれの方面団が連携を図り、組織的な活動ができるよう更なる充実強化が図られたものと考えております。

団の運営は総括団長及び６方面団長の指揮の下、それぞれの地域ごとにおいて培われてきた特色ある団運営を生かしながら活動を行なっております。

また、萩地域には離島の消防団が3分団あります。有事の際には常備消防の力が即座に及ばないため、地域と一体となった消防団活動を行なうと共に、積極的に消防力の拡充強化を図っております。

4　被害概要について

７月28日、山口県付近に発達した雨雲が次々と流れ込み、早朝から昼過ぎにかけて、萩市東部のむつみ、須佐、田万川地域で猛烈な豪雨となりました。

１時間の降水量が、須佐で138.5ミリと観測史上最大の雨量となり、28日午前９時20分からの３時間に７月の月降水量の平均値（281.6ミリ）を上回る301.5ミリを観測する記録的な豪雨となりました。気象庁からは「これまでに経験したことのないような大雨」、８月30日に運用が開始された特別警報レベル、すなわち数十年に一度の重大な災害の危険があることを知らせる特別警報に匹敵す

広範囲に及ぶ浸水

るものと発表されています。

災害当初は、萩地域と東部（田万川、須佐地域）を結ぶ国道191号や国道315号など主要道路の崩壊や土砂崩れ等ですべて通行止めとなり、多くの集落が孤立する事態が発生しました。また、電気、通信施設の崩壊等により、停電や情報途絶、上下水道などのライフラインも止まり最悪の事態となりました。

このような中、田万川地域では家屋の倒壊により79歳の女性が、須佐地域では河川に流され84歳の男性がそれぞれ亡くなられました。また、須佐地域では、河川に流されたと思われる60歳代の男性が行方不明となっています。このほか、田万川地域では原中川沿いにある特別養護老人ホーム「阿北苑」が、原中川の氾濫により濁流が建物の中に入り込み、ベッドすれすれまで水が押し寄せ、入所者や職員57名が孤立し、翌日ヘリで無事全員が救出されるという事態も発生しました。

今回の災害により、むつみ、須佐、田万川地域では河川の氾濫により、河川沿いの多くの家屋や田畑が浸水し、泥土が流れ込み、一部の家屋は流されました。家屋被害は全壊34棟、大規模半壊90棟、半壊428棟、半壊には至らないが一部被害を受けたもの105棟、床上浸水531棟、床下浸水474棟にも上りました。

公共施設等の被害は、市土木施設（道路・河川）被害889カ所、約55.2億円、農林水産関係、農地農業用施設被害1,648カ所、約39.7億円、林道被害105カ所、約1.7億円、漁港施設被害３カ所、約5.5千万円、市有公共施設被害22施設、6.1億円、市営住宅被害12施設、2.9億円となっており、また、商工業関係被害（萩阿武商工会調べ）が73社、約10.8億円の、合計で約116.9億円の被害額となりました。

消防団関係の資機材等の被害については、車両が救出活動中に１台が浸水、消防器庫で２台が浸水、また、河川横にあった消防器庫１棟が護岸崩壊により全壊の被害を受けました。

5　消防団の活動について

７月28日の未明より、大雨に関する気象情報が防災メールから配信されていました。むつみ地域では、午前４時48分、下関地方気象台から萩市に大雨洪水警報が発令され、午前６時56分には蔵目喜川が水防団待機水位を超えたため、同時刻にむつみ方面団長に団員の出動要請がされ、午前７時40分に避難判断水位（特別警戒水位）を超過したのを受け、７時55分地域内全域（1,417世帯、2,982名）に避難勧告が発令されました。消防団員は同時刻より、水防活動を開始し、午前８時にむつみ地域災害対策本部が設置されました。消防団員は、蔵目喜川周辺集落などの警戒巡視や住民の避難誘導を実施するとともに、土砂災害の危険がある区域と道路が土砂等で寸断された区域の住民２人の救出を行いました。

逃げ遅れ救出

また、８月１日には二次災害防止活動として、住宅の裏山が崩れた箇所をビニールシートで覆う作業を行いました。

須佐地域では、７月28日午前10時前より豪雨となり、弥富地区の田万川新市橋の水位が避難判断水位を超過したのを受け、市は午前10時40分に須佐方面災害対策本部を設置されるとともに、直ちに弥富地区田万川流域一帯（約70世帯　約190名）に対し避難勧告を発令され、午前11時に消防団に対し出動要請がありました。

須佐川の水位が上昇し、避難判断水位を超過したため、午前10時52分に須佐地区須佐川流域一帯（約500世帯　約1,000名）に避難勧告が出されました。消防団は、須佐方面団長及び副団長の指揮により、団員74名（須佐地区54名、弥富地区20名）が須佐川及び田万川流域一帯を中心とした避難伝達、高齢者世帯への避難支援、救助にあたりました。午前11時30分頃、道路が冠水し、須佐川が決壊、氾濫する中で、自力で避難が難しい高齢者世帯を中心に安否確認を行うとともに、自宅２階や避難所への避難支援を行いました。

また、須佐診療センター付近で、警戒にあたっていた萩警察署宇田駐在所の警察官が道路冠水で孤立し、身動きが取れなくなっていたため、団員数名が救助にあたり人的被害を防ぎました。午後２時22分には、須佐唐津地区で行方不明者が出たとの情報を受け、団員25名が須佐川沿いの捜索を開始し、午後７時15分に一旦捜索活動を終了しました。翌29日午前８時、団員15名が須佐唐津地区での行方不明者の捜索を再開するとともに、他の団員11名により自宅２階へ避難した高齢者世帯や災害時要援護者世帯への安否確認を行いました。

７月30日には、午前８時から、団員19名が崩落した道路の通行確保のため、土のう袋500枚を使用して、現地で土のうを作成し、土のうを積み上げ道路の崩落を防止し、通行確保を行いました。

河川の氾濫による浸水

また、道路崩落等により車での通行が出来なくなり孤立している高齢者集落へ飲料水や食料を届けるため、ペットボトルの飲料水と食料12名分を徒歩により運搬しました。

田万川地域では、７月28日午前10時過ぎから豪雨となりましたが、市職員、田万川方面団本部は、午前10時20分頃にはその雨の勢いですでに参集を完了していました。田万川総合事務所長がこの時点で田万川方面団長に団員の出動要請をし、団長の指揮の下で、第１分団から第８分団（第２分団は河川氾濫により消防器庫等壊滅）が担当地域をパトロール、避難広報、避難誘導活動を行いました。午前11時に田万川方面災害対策本部が設置され、田万川地域全域（1,364世帯、3,023人）に、避難勧告が防災行政無線で発令されました。午前11時から12時は豪雨がピークであり、河川の氾濫及び決壊、道路・橋梁への浸水、冠水等により、水防活動が困難を極めたため、２次災害防止の徹底に努めました。午後12時30分頃、上小川地区では、第１分団８名が土砂災害の危険がある区域の高齢者夫婦を救出し、農村婦人の家に避難させ、同時刻、江崎地区下郷一帯を第５分団がパトロール、避難広報、避難誘導を行った直後、一気に濁流が襲い、辺り一面が浸水し湖と化しました。そのような状態の中、冠水した道路上で車の中に閉じ込められていた者の救出を行いました。同じく、江崎地区の上本郷でも、第４分団がパトロール、避難広報、避難誘導中に田万川総合事務所周辺は、見る見るうちに濁流が押し寄せ、上本郷の住宅はほとんど床上浸水となりました。この頃、小川地区の最も重要な県道である益田阿武線の高岩橋付け根部分が押し流されて寸断され、小川地区は、上小川、中小川と下小川に二分された状態となり一切の交通が遮断されました。浸水が収まり、水が引いた午後２時に、各分団は１班ないし２班編成で、担当地区全世帯の安否確認を行いました。そして、日没前の午後６時頃、本部に集合し団長に報告を行い、避難者、不在者を除き異常がないことを確認しました。

また、７月29日から31日は本部の指示により、いずれも午前８時30分に出動し、各分団単位で、担当地区の安否確認、被害情報収集、被災住民への対応を行いました。８月2日から11日までは、いずれも８時30分に出動し、被災住民への対応、避難所避難者への食事の配食、避難所への救援物資補充、災害瓦礫の搬出処理の支援等災害処理活動を行いました。

このように、消防団員は、増水した川の水が腰や胸にまで至る大変危険な状況の中、自分の命を張って住民の救出や避難誘導に努めました。消防団員の多くは自宅が被災し、家族が危険な状態にありましたが、「郷土愛精神」から住民の命を守るという任務を最優先し、見事それを全うしました。

土砂撤去の状況

6　おわりに

今回の豪雨災害は、我々がこれまでに経験したことのないような災害であり、自然の持つ大きな力の前では、我々人間はあまりにも非力であると痛感させられました。

電気・通信施設の崩壊等による情報途絶、道路網の断絶による避難誘導や救出・救助活動に支障をきたした最悪の事態となり、今後重大な災害時におけるこれらの対応・対策をどうするか。また、被災者の多くは高齢者であり、超高齢化社会における集落の孤立化、コミュニティーが作れない地域の要救護者への対応・対策をどうするかなど、多くの課題が見つかりました。

しかしながら、今回の災害では、人的被害は災害の規模から想定される被害よりも、かなり少ない被害に抑えられたことは「奇跡的」といえるほどであり、なにより一番の幸いでありました。これは消防団員が自分の命を投げうつ覚悟で住民の避難誘導や救出活動を行ったからだと自負しているところであります。

我々消防団は、これからも「自分たちの地域は自分たちで守る」という高い防災意識をもって、地域住民から信頼される地域防災のリーダーとして取り組んでいきたいと思っております。

災害活動報告

「平成25年8月発生、土砂災害活動報告」

秋田県仙北市消防団　団長　佐藤　生治

はじめに

平成25年８月９日に発生した豪雨に伴う土砂災害では、仙北市におきましては６名の方が亡くなられるなど甚大な被害を受けました。この災害により犠牲になられました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられました皆様にお見舞い申し上げます。また、この度の災害に対しまして、日本消防協会様をはじめ、全国の皆様方から多大なるご支援をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

仙北市の紹介

平成17年９月20日に田沢湖町、角館町、西木村の３町村が合併して誕生。秋田県の東部中央に位置し、市のほぼ中央には、水深が日本一である田沢湖、東に秋田駒ヶ岳、北に八幡平、南は仙北平野へと開けています。

多くの観光資源に恵まれた東北屈指の観光地です。角館地区は武家屋敷群を中心として「東北の小京都」と呼ばれ、当地区は桜の名所でもあり、シダレ桜に彩られた武家屋敷と桧木内川堤の桜並木の美しさに、毎年たくさんの観光客が訪れています。田沢湖地区にある、田沢湖は日本最深の423.4メートルを誇り、その周辺には、すぐれた効能と豊富な湯量で全国に知れ渡る名湯、玉川温泉・乳頭温泉郷があります。西木地区は、日本一大きいと言われている西明寺栗や八津にはカタクリの群生地があります。毎年２月10日に上桧木内で開催される、「紙風船上げ」では、灯火を灯した巨大紙風船が真冬の夜空に舞い上がる幻想的な風景が見られます。

消防団の概要

平成17年９月に３町村の合併により、「仙北市連合消防団」が発足。その後、平成20年４月に「仙北市消防団」と名称を変更し、現在の本部ほか10分団に編成されました。平成25年４月１日現在の団員数は601名（その内女性13名）で組織されています。

当消防団は、小型動力ポンプ付普通積載車16台・小型動力ポンプ付軽積載車14台・小型動力ポンプ53台を配備し、日夜、市民の安全・安心のため活動しています。

被害概要

８月９日早朝から降り出した雨は、降り始めからの総雨量が鎧畑で278.0mm、桧木内で235.5mmと「これまでに経験したことのないような大雨」を観測。この豪雨は、秋田・岩手両県に甚大な被害をもたらし、当市では雨の影響により市内を流れる桧木内川が氾濫、国道が冠水し通行止めになりました。その後、雨は市北東部でも激しさを増し大小河川が氾濫、特に先達地区の供養佛で大規模な土砂災害が11時35分に発生、山の斜面が長さ約360m・幅約40mにわたって崩壊、この土砂災害により６名もの尊い人命が奪われ、また、重傷者１名、軽傷者１名、全壊・半壊・一部破損家屋17棟もの被害を受けました。

消防団活動について

８月９日：早朝から激しい雨が降り出したことに伴い、各分団に出動及び警戒の指示を出しました。11時40分頃、先達地区で大規模な災害が発生したとの情報により、十分警戒して活動するよう

分団長へ指示し、現場へ向かわせました。団員は、避難の呼びかけや避難誘導に努め、そのような中、人的被害者３名が病院へ搬送されました。その後、13時53分に避難勧告が当地区に発令され、５名の方と連絡が取れないことが判明しました。

８月10日：朝６時から自衛隊・警察・消防本部と協力して本格的に行方不明者の捜索活動を開始。団員は、土石流に流された秋田杉と流出した泥による足場の悪い中、現場に流れ込む水を阻止するための土のう積みと、捜索を行う班に分れ活動をしました。８時15分に１名の方を発見、その後、相次いで３名の方が発見されましたが、残念ながら全員の死亡が確認されました。

８月11日：この日は、気温・湿度ともに高い中での捜索の為、団員や他の捜索隊にストレスや疲労がみられるようになりました。そのような中、現場本部で活動していた女性消防団員から冷たい飲み物と温かい励ましの声をかけてもらうことにより、この厳しい環境の中で、疲れが癒やされる一時をもてたと感じました。

８月12日：災害の発生から４日目、連日の暑さで悪臭や虫が発生するなど環境の悪化が目立つようになり、道路の洗浄や捜索現場へ流れ込む沢水

の排水作業を行いました。これによって、災害現場の環境が良い方向へ改善されました。当地区に出ていた避難勧告は部分的に解除されることになり、被害の無かった地区住民が帰宅することから、地区の安全を再確認するよう団員に巡回の指示を出しました。

８月13日：懸命の捜索の結果、16時08分、行方不明だった最後の方が土砂の中から発見され、残念ながら死亡が確認されました。行方不明者全員が発見されたことにより、17時をもって捜索を終了解散となりましたが、その後の天候状態により団員の出動は19日まで続き、今回の災害における消防団員の出動人数は延べ571人にのぼりました。

おわりに

現場は生き物であり、日々状況が変化していく中、いかに早く情報を集め対応していくか、また、捜索隊・地元住民の心理状態の変化、連日の捜索による疲労やストレスにより、意見の相違がみられるようになり、その調整の難しさを感じました。その中で、女性団員の出動により、現場の雰囲気が和やかになり、特に厳しい環境になればなるほど、女性の役割は大きいとも感じました。

この度の災害にあたり、悪状況の中、必死に活動した団員に感謝するとともに、今後、起こりうるいかなる災害にも、仙北市消防団一致団結して取り組んでいくことを誓い、活動報告とさせていただきます。

「消防団の店」現地ルポ

ー薩摩川内市消防団「消防団サポート事業所」を訪ねてー

リスクコミュニケーター　長谷川　祐子（元在日米海軍司令部　予防課長）

平成25年７月17日、薩摩川内市を訪問した私たちを「薩摩川内市消防団」薬師寺団長、有岡様、そして団本部付き女性部「薩摩おごじょ」宮里部長が温かく迎えて下さいました。

今回の訪問目的は”消防団の店”調査です。

消防団の認知度を高め、且つ団員への嬉しいサービスになるこのプログラムが具体的な展開として日本中に広がっていることを実感したい、と私たちは、はやる気持ちを抑えて薩摩川内市に向かいました。

薩摩川内市は薩摩半島の北西部に位置し、南は鹿児島市に隣接、北は阿久根市に隣接する本土区域と、断崖、奇岩で知られる離島である甑島（こしきしま）区域で構成されています。市街部を流れる一級河川「川内川」、藺牟田池をはじめとする池や湖、温泉などがあり豊かな自然を有しています。

平成25年10月1日現在・薩摩川内市

■総面積：683.50㎢
（本土564.75㎢／甑島118.75㎢）

■総人口：99,220人

■世帯数：46,076世帯

この地での災害は、昔から「台風」と「豪雨」によるものです。

そのため、人々の災害に対する意識は高く、先頭に立って働く消防団の存在が必要不可欠でした。

後ほど紹介する“消防団の店”や、サポート制度を実施している会社の皆さんからは、「先代から消防団を大事にするように、といつも言われていました。」と聞きました。

また上村消防局長のみならず、岩切薩摩川内市長までもが元消防団員で元川内地区消防組合消防長という経歴をお持ちです。

昭和で８回もの洪水を起こした“暴れ川”の川内川から市民を守るには、このお二方をおいて他にはいないのではないでしょうか。

実際、平成８年７月に起こった総雨量1,165㎜という記録的な豪雨時にも、岩切薩摩川内市長、上村消防局長、薬師寺団長らが大奮闘されたそうです。

今回調査対象となったお店は、ガソリンスタンド、ゴルフ場、美容室、そして建築会社でした。

薩摩川内市内では、消防局が主にお店の開発に取り組んでいました。平成12年から実施され、現在112店舗が参加しております。

■ガソリンスタンドの事例（平野商事株式会社様）

ガソリンスタンドでは、消防団員に１ℓあたり２円の値引きサービスをしています。

ガソリン店同士の競争もあり、ご商売は絶好調という状態ではないとのことですが、先

平野商事株式会社

平野代表取締役

店内入口に消防団員サポート事業所のプレートが掲示されていました

代と店主が消防団員だったこともあり、消防団へのサービスを展開しています。

サービスをより多くの方へ知って頂く為のポイントとして、以下をご提案させていただきました。

・“消防団員サポート事業所”のプレートを目に付きやすい所に張る
・“消防団員サポート事業所”のプレートをもう少し大きくする
・消防団の日を決め、その日は特別値引きをする

などです。

現在、薩摩川内市内には1,282人もの消防団員が活躍されております。

愛用のガソリンスタンドがあっても、１・２か月に１回“消防団の店”を利用することを心掛けるだけで、団員もガソリンスタンドも消防への意識を高められるのではないでしょうか。

また、“消防団員サポート事業所”のプレートを掲げていれば、一般のお客様の関心も高まり、将来消防団への入団者が生まれる可能性もあります。

■ゴルフ場の事例（グリーンヒルカントリークラブ様）

こちらのゴルフ場は、温泉のあるホテルも併設されており、結婚式を挙げるカップルも多く、薩摩川内市内の老若男女に人気です。

こちらの先代会長は、はしご車を消防局に寄贈されたり、消防への関心の高い方だった

グリーンヒルカントリークラブ

尾形支配人

そうです。

支配人との話の中では団員の皆様の使用はあまり多くはないということでしたが、消防団員の方向けに新たな取り組みや特別サービスデーを設け施設側からも呼びかけを重ねるというお話をいただきました。

（例：プレー代の値引きサービス、結婚式の20％割引サービス等）

■美容院の事例（美容室G-three3様）

こちらの美容院では、施術料金の割引サービスをしています。

今回お会いできませんでしたが、こちらの店長さんが消防に大変協力的な方ということで　消防団のお店としての登録もすぐに受けていただいたそうです。

薩摩川内市の女性消防団は60名の利用状況はどうかですかと副店長さんにお尋ねするとあまり活発な状況ではないかなというお返事でした。

サービスをより多くの人に活用していただくために、以下をご提案させていただきました。

・“消防団員サポート事業所”のプレートを目に付きやすい所に張る
・消防団へのサービス内容を目立つところに張ったり、お手紙などでご紹介する機会を増やす
・お得意様などに口コミで広めていただく。
・女性消防団員へ、サービス内容をご紹介する。

などです。

■薩摩川内市の“消防団の店”を訪れて

今回、薩摩川内市の“消防団のお店”を訪れて感じたことは、

・店舗側の意気込みが少し薄れていること

美容室G－three3

下永田店長

・利用者にサービス店とサービス内容があまり知られていないこと

でした。

㈱南日本運輸建設　井ノ下総務部長　溝上総務課長

このサービスを実施しているということは、消防団へのサービスということだけではありません。

一番大切なことは、「消防団の認知度を高める」ということです。

お店の店長さんが認知するだけでなく、そのお店に来た人たちに消防団を知ってもらう（宣伝）ということが重要です。

将来、“消防団の店”を通じて消防団への入団者が生まれること。

地域の消防団員が増え、消防・防災意識を高め、消防団が活性化していくこと。

そのためにも、まずは消防団の認知度を高めることが何よりも重要になります。

二番目に大切なことは、その店が消防団にサービスを実施することで、地域貢献をしている店であると地域の住民に認知してもらうことです。

シールをぜひ皆様の目につくところに張ってほしいとお願いするのはそのためです。

“消防団の店”は消防局のみならず、消防団自身が育てていくことが大切ではないでしょうか。

消防団が市民に認知され、仕事をしながらボランティア消防団として地域に貢献していることをもっと多くの方に知ってもらいましょう。

消防団の皆さんには、新たな“消防団の店”の開拓と、既存店舗のご利用をお願いしたいと思います。

今回、“消防団の店”以外に「南日本建設会社様」にもお話を伺いましたが、市内の公共工事入札事業所に対して、消防団を雇用している事業所には１人につき２点、最大40点を加点するというサービスを展開しているそうです。

今後も薩摩川内市消防局では、定期的に活性化委員会を開催し、消防団員の支援について検討していかれるとのことで、これからも強力なサポートで制度の運用を進めていただけそうです。

薩摩川内市を訪れて、消防団へのバックアップを官民一体となり、取り組んでおられる事を強く感じました。

こうした地域が次々と増えていくことを心から願います。

ご協力いただきました、薩摩川内市消防団と薩摩川内市消防局の皆様

特別表彰「まとい」を受章して

「町の元気は消防団から発信する」

辰野町消防団　団長　古村　幹夫

1　辰野町消防団の概要

長野県上伊那郡辰野町は、日本列島のほぼ中央に位置する人口約２万１千人の町です。

辰野町消防団は、昭和23年消防組織法の施行に伴い編成され、その後朝日村、川島村、小野村との町村合併を経て機構改革を行い現在９分団、496名の団員によって構成されています。当団の大きな特色の一つとして、町職員により構成される常備部（分団）の活動が挙げられます。所属する25名の団員の多くが、役場庁舎内に勤務しているため、火災時などには隣接する消防署の車両とほぼ同時に出動が可能であり、出動団員確保が困難な平日昼間の災害に対しても、初期活動に大きな力を発揮しています。年間の活動については、４月の辞令交付式から始まり、以降規律訓練を中心とした春季訓練、町や郡のポンプ操法大会・ラッパ吹奏大会を経て県大会への出場を目指し、また総合防災訓練、模擬火災訓練、年末警戒、出初式など年間を通じて幅広い訓練を重ねています。近年は消防団のホームページ、公式Twitter、Facebookなどを利用した広報活動にも力を入れ、我々の活動を多くの皆様に知って頂くと同時に、災害時の情報発信の手段として利用していく試みを行っています。私たち辰野町消防団は、災害に強い町づくりは、元気な町をつくる事からと考え、「辰野町の元気は消防団から発信する」を合言葉に日夜活動に励んでおります。

県ラッパ吹奏大会

2　災害に立ち向かう

辰野町はその面積の約７割を山林・原野が占め、これまでに大雨による多くの自然災害に直面してきました。昭和38年の集中豪雨災害では、山林作業員10名が現場宿舎にて生き埋めとなり、尊い命が失われました。近年では、平成18年７月豪雨において土砂崩れなどにより４名の方々がお亡くなりになっています。平成18年の災害では７月17日から８月３日までの間に延べ1200名の団員が出動し、行方不明者の捜索や水防活動などにあたりました。この災害の経験から、辰野町消防団では機動力の強化と組織の見直しに着手し、翌年から建設機械やチェンソーなどの資格取得講習の実施、水防機材の充実などに

18年災害

取り組み、自主防災組織との連携を目的に合同訓練を行っています。また、被災された方への対応は男性だけでは限界があると感じ、平成20年４月から女性消防団員の採用を始め、現在16名の女性団員が活躍しています。

3　消防団を身近な存在に

団員確保の難しさは当団においても例外ではありません。そのような中、地元の自動車教習所が県内消防団員と消防団入団予定者に対する料金減額を、また町内日帰り入浴施設においては、全国の消防団員を対象とした料金割引をおこなって頂くなど、消防団を支えて下さる民間企業が増えてきましたことは大きな励みとなっております。我々といたしましても、時代に相応しい魅力のある消防団のあり方を模索すると共に、消防広場などの開催により、私達の活動を多くの皆様に知っていただく取り組みを始めました。この中において消防団員が扮する戦隊ヒーロー「ダンインジャー」を誕生させ、楽しく火災予防を呼びかけるとともに、消防団を多くの皆様に、身近な存在として感じていただこうと活動しています。平成24年には、この予防広報活動の取り組みをテーマに、全国消防団員意見発表会において発表をおこなった団員が、最優秀賞受賞という成績を収める事が出来たほか、長野県元気づくり支援金を活用した活動内容が、特に優れていたとして「地域発　元気づくり大賞」を受賞するなど、県内外に辰野町消防団の積極的な取り組みを周知していく事が出来たと感じております。また本年度は、保育士でもある女性団員が作詞・作曲・振り付けを手がけた防災体操「キッズファイアヒーロー」を発表し、各方面から高い評価を頂く事が出来ました。

4　結びに

本年は、現在の消防団の前身である消防組が誕生して百二十年目、そして自治体消防の体制が整備され六十五年目の大きな節目の年となります。このような記念すべき年に、全国各地で活躍される九つの消防団の皆様と共に特別表彰「まとい」を拝受できましたことを心から誇りに思い、今後はこのまといを、この町を守る我々消防団員の心意気を示す象徴として、末永く大切にさせていただき、何事にも負けない強い気持ちと共に次の世代に引き継いでまいります。今回の拝受に際しまして、日本消防協会ならびに長野県消防協会をはじめ、ご関係の皆様の多大なお力添えを賜りましたことに深く感謝申し上げます。こうした皆様のご期待に応えるべく、ふるさと辰野町、そして長野県の安全の為に団員一丸となってさらなる努力を重ねることをお誓い申し上げ、まとい受章のご挨拶とさせていただきます。

ダンインジャー

東西南北 奈良

「住民の生命と財産を守り安心・安全な地域づくり」

広陵町消防団　団長　山村　森夫

1　広陵町の概要

広陵町は奈良県の中西部に位置し、東部は平坦地が広がり、西部は丘陵地帯で、高田川・葛城川・曽我川が流れています。総面積は16.33㎞で古墳と緑地と人に恵まれた、温かい地域に町は位置しています。

昭和30年に馬見村・瀬南村・百済村が合併し、翌年に箸尾町を編入して現在の広陵町になりました。

健民運動場で行われる出初式

広陵町では、県の公園「馬見丘陵公園」も整備されており、古墳の町としても有名で県外から毎年多くの来訪者が訪れます。

町の人口は34,558人（８月末日現在）で、人口の減少が著しい近年の中でも、人口増加が進んでいる元気な町です。近年では、馬見地区を中心に、大阪へ通勤する方々のベッドタウンとして、人口増加が顕著に表れています。

馬見丘陵公園とナガレ山古墳

2　広陵町消防団の概要

広陵町消防団は昭和30年４月15日の発団となっております。

現在、消防団組織として、124名の消防団員が所属し（定員130名）、うち27名の女性団員を含め、本部と４分団で組織され、それぞれが連携しながら防火活動、防災訓練の参加、防火水槽等の消防水利の点検等を含め幅広く防災活動に努めています。

消防車両等の装備については指令車２

台、消防ポンプ車４台、タンク車２台を配備し、消防資機材等分団ごとに設置しています。近年でも、第１分団水槽付消防ポンプ自動車引渡式が本年３月に行われました。第４分団ポンプ車につきましても、本年度中に整備を完了し、消防力の強化を現在も行っております。

3　広陵町消防団の活動について

広陵町の消防団の活動につきましては、団員確保対策の強化や団員の技能の向上、老朽化した施設・設備の更新を行っているのは、前章で述べたところでありますが、一年を通じた消防団の活動も盛んに行われています。

１月には出初式、文化財防火訓練、毎年行われる広陵町総合防災訓練の他、地域での要望に応え初期消火訓練への団員派遣、そして、例年開催されるかぐや姫まつりでは消防団による防火啓発イベントの開催を実施するなど、地元住民との繋がりも強固な関係を築いています。

また、年に２回は女性消防団による街頭啓発が実施されており、住民の方に向けた周知活動も徹底されています。

女性消防団員による消火啓発活動

讃岐神社で行われる文化財防火訓練

4　おわりに

近年、都市化や生活様式の変化に伴って、火災現場への出動機会は幸いにも減少傾向にあります。

近年の災害は、ゲリラ豪雨、地震、竜巻など多種多様化しており、消防団に寄せられる住民の期待は益々増大しています。

防災面については、過去の水害や東南海・南海地震の発生確率等を踏まえ、広陵町では防災体制の充実を進めてきました。

防災倉庫の設置や防災資機材の整備、自主防災組織の結成や防災士の育成、防災訓練の定期的実施、人づくり・地域づくり・組織づくりの強化に取り組んできたほか、平成23年に発生した東日本大震災や台風12号による豪雨災害を踏まえ、防災・減災体制の強化に努めているところです。

今後、消防団として、これらの取り組みと一層積極的に連携を行い、地域の防災力をさらに強化し、あらゆる災害に強い安全・安心なまちづくりを総合的に進めて行きたいと考えております。

私達は「住民の生命と財産を守り安心・安全な地域づくり」を使命とし、全団員で消防団活動に励み、地域の防災リーダーとして邁進して行きたいと思います。

東西南北
東京

「我がまち大田区を4消防団が連携して守る」

大森消防団　団長　當麻　善健

1　大田区の紹介

大森消防団は、東京23区の南東端に位置する大田区にあります。大田区の南側は多摩川を境に神奈川県川崎市に接し、東側は東京湾に面した羽田の東京国際空港から世界に繋がっています。大田区には、大森消防団の他に、田園調布消防団、蒲田消防団、矢口消防団があり、大田区内消防団合同点検や大田区水防訓練等を通じて連携を強化しています。

各消防団管内の一画を紹介します。

田園調布消防団、大正時代に「田園調布駅」を中心に、当時イギリスで提唱されていた「田園都市構想」に基づいて、住宅と公園をとりまぜたまちづくりの理想を追って開発された現在の田園調布三・四丁目あたりの街並みは、駅を中心とした放射状の街区と宝来公園の取合せ、雄大な多摩川の流れに沿う多摩川台公園や田園調布せせらぎ公園、緑地や神社あるいは敷地内の樹木が一体となって、豊かな緑と優れた環境を作り出していて、高級住宅街となっています。

蒲田消防団、４本の滑走路がある東京国際空港は、平成22年国際線ターミナルが開業しハブ空港機能としての役割が期待されています。昨年のNHK朝のドラマ「梅ちゃん先生」の舞台が蒲田でした。

矢口消防団、下丸子地区の多摩川スーパー堤防には「二十一世紀桜」と命名された桜並木トンネルが延々続き、大田区民を憩い、工場移転再開発地に建ち並ぶ超高層マンション群とともに素晴らしい景観を多摩川に映しています。

大森消防団、大正から昭和にかけて数多くの文士・芸術家たちが居住し、集い、語り合い、執筆活動をした地・馬込地区は、馬込文士村として、文士たちの足跡が郷土博物館に常設され、ガイドの会による散策同行なども行われています。羽田空港を離着陸する

大田区内合同点検

飛行機や東京港を航行する船舶が間近に見える都立城南島海浜公園は、オートキャンプ、バーベキュー、スケボー広場などの様々な施設、砂遊びや砂浜散策、美しい夜景が楽しめる水辺の人気スポットです。

2　消防団の沿革、概要

明治20年に大森村に消防組が設けられ、昭和14年警防団令により大森警防団が組織され、昭和23年警防団が発展的に解散して大森消防団結成式が挙行されました。現在は８個分団278名の陣容で伝統を受け継ぎ活動しています。

3　消防団の活動

特別区消防団運営委員会答申に基づいて、特別区消防団の災害活動力を向上させ、将来にわたり持続させていく方策として、モデル分団を選定して、地域特性に応じ、震災時に優先的に求められる災害活動に対応した実戦的な教育訓練を推進し検証することとなり、大森消防団としても延焼危険度が高い地域を担当する第６分団をモデル分団に選定して、なおかつ他の分団も追随するかたちで、全分団が到達目標を設定して実戦的な訓練に励んでいます。

平時の災害活動については消防署隊の活動に連携した活動が主となります。

他の活動としては、応急手当普及員や応急手当指導員の資格を有する団員による救急普及活動、町会の防火防災訓練指導、地域のイベントや祭礼の警戒と消防PRコーナー、市民消火隊へのスタンドパイプの取扱いや放水訓練の指導などがあります。

4　おわりに

全国の本誌愛読者諸兄におかれては、研修や旅行などで羽田空港をご利用のこととご推察いたします。大田区に親しみを持っていただき、機会あれば散策などを楽しまれてはと思い、今回の執筆にあたって大田区の紹介に多くの字数をいただきましたご了承ください。

救急普及活動

東西南北
鳥取

「みんなで支え合い助け合う地域防災の要として」

若桜町消防団　団長　山根　勝

1　若桜町の紹介

若桜町は、鳥取県の東南端に位置し、東は兵庫県、南は岡山県に接しており、面積は199.31㎢、人口は1,492世帯、3,721人（平成25年９月１日現在）です。

中国地方第２の高峰国定公園「氷ノ山」を仰ぎ、豊かな自然に恵まれた美しい町であるとともに、中世から近世にかけて鬼ヶ城を中心に城下町・宿場町として栄えた、歴史と文化の香り高い町でもあります。

登録有形文化財の駅で有名な若桜鉄道若桜駅では、観光客に人気のSLの運転体験ができます。（12型・圧縮空気により稼動）

また、SL蒸気機関車の復活に向けた取り組みも行っています。

氷ノ山山系とスキー場

若桜駅構内のSL

消防出初式での一斉放水

2　消防団の概要

若桜町消防団は、昭和29年３月１日若桜町と池田村合併に伴い、消防団も統合され、現在では１本部４分団に再編、団員も60人（内女性団員３人）で組織されています。消防車両は、本部車１台、消防ポンプ自動車４台を配備しています。

3　消防団の活動

山陰でも雪の多い若桜町では、４月初旬に消防出初式を行います。５月の若桜神社大祭、７月の花火大会では事故が起きないように警備に当たっています。

消防ポンプ操法大会

毎年11月に夜間の火災を想定した演習を実施し、住民・自主防災組織・広域消防・消防団の連携がとれた演習を行っています。

予防運動については、秋と春の火災予防運動期間中に防火パレードを行い、わかさども園の園児たちと一緒に火の用心を呼びかけています。

平成19年10月に横浜市で開催された、第18回全国女性消防操法大会には、若桜町女性消防隊（SAKURAANGELS）が鳥取県代表として出場し、４月中旬から半年間、通常の仕事や忙しい家事の合間に訓練を重ねた努力が実り、大会当日はすばらしい操法を披露することができ、見事「優良賞」に輝きました。

全国大会終了後も、防火広報活動や救命講習、災害発生時には救護、炊き出し及び要援護者の安否確認など「地域の安全確保」のため活動しています。

消防団発足60周年記念

鳥取・兵庫県境の山々には登山者も多く遭難事故が起これば山岳救助に出動します。防災ヘリコプターとの連携も必要であり、地理に詳しい団員の存在は頼もしいかぎりです。

平成19年８月の集中豪雨災害では、局所的集中豪雨に見舞われ、河川が氾濫し、県道・町道が水没、４集落が孤立しました。水防団（消防団兼務）も出動し、土のう積みや避難誘導、パトロールなどを行い、被害を最小限におさえる活動により、人的被害はありませんでした。

女性消防隊

4　おわりに

自然災害などから住民の生命・財産を守るためには、災害に対する住民の危機管理意識を高め、被害を最小限におさえるため、行政と住民が一体となって災害に強い町づくりを計画的に進めていくことが重要です。

地震などの災害発生に対して迅速に対応できるよう、防災訓練や自警団・広域消防との合同消防演習や啓発活動を行っています。「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛の精神に基づき、みんなで支え合い、助け合う地域防災の要として今後も活動して行きたいと思います。

シンフォニー（富山県）

「子供から高齢者までの防災」

富山市消防団大沢野方面団　大沢野女性分団　分団長
吉岡　佳津子

私たちが住んでいるまち、「富山市」は富山県の中心に位置し、富山湾から3,000m級の山々が連なる北アルプスまでの広範囲となっています。その富山市の中でも南部に位置している大沢野地域に私たち女性分団があります。この地域は、風が吹き荒れる日が多いため「風のまち」と言われ、田園地帯が広がる自然豊かな地域です。

私たち大沢野女性分団は、平成４年に本部付けで発足し、平成22年に分団化しました。現在では、富山市の80ある分団のひとつとして、20代から60代と幅広い年齢層の20名で活動しています。

発足当初から「自分たちの地域は、自分たちで守る」という消防精神のもと、予防活動に重点を置き、地域に合った活動内容を考え、「子供から高齢者までの防火防災」をテーマに取り組んでいます。

寸劇

活動内容のひとつに、対象を子供に限定した防火教室があります。幼稚園や保育所へ訪問し、手作りの紙芝居や影絵、手遊びを交えた歌、ゲームなど五感を使った遊びを取り入れて防火教室を飽きさせないよう工夫をしています。その中で、子供たちには必ず『３つの約束』をお願いしています。「①火遊びは絶対にしません。②マッチやライターは触りません。③ストーブの回りを走りません。」と防火教室の最後に子供たちと大きな声で約束し、子供たちの防火に対する気持ちが芽生えるきっかけになるよう活動しています。

また、平成４年の発足当初から行っている『各種団体に向けた防災に関する寸劇』は、私たちの活動の中心にあります。当初から試行錯誤を繰り返し、自分たちでシナリオを考え、小道具などを手作りしています。馴染みのある富山弁を巧みに使い、笑いも交えながら日常にありそうな状況を作り、防災について考えてもらえるよう工夫しています。今では、自主防災会や老人会などから再演のお呼びがかかるほどにまでなっており、団員達も女優になりきって、寸劇を通して防火活動を行っています。

私たちの活動をさらに向上させるべく、「礼式訓練」「消火器の取り扱い訓練」「救

応急手当講習

急に関する訓練」などを行い、知識を深めてまいりました。その中で地域への普及や団員のスキルアップのために応急手当指導員や普及員の資格を取得し、各種団体や学校、地域などに普及できるよう救急講習の指導に当たっています。救急講習では、いざという時のため、受講者はなかなか実感としてわかないようですが、繰り返し指導することにより必要性を理解してもらえるようになりました。普及という難しさは、繰り返し指導することで乗り越えられると信じ、この活動に取り組んでいます。

地域に根差した活動をしていく中で、私たちの活動をもっと多くの方々に知ってもらうために広報紙を作成しています。広報紙「火まわり通信」は、年に１回大沢野地域の全世帯に発行しています。内容は、地域で行われている防災教育や知ってもらいたい情報の提供、防災に関連したちょっとした豆知識、地域の方々の防災に対する心構えなど様々な情報を載せています。地域の反応は上々で、「火まわり通信、見たよ！豆知識、役に立ったよ。」などの声をいただき、継続していく糧になっています。今後も内容を充実させ、地域に根差した内容の広報紙作りを行っていきます。

今年で大沢野女性団員発足20周年となります。単に20年と言ってしまうとあっという間ですが、今日に至るまでには、諸先輩方のご苦労があってこそと思っております。諸先輩方が築き上げられた大沢野女性消防分団を今後も充実させていくべく、努力していきたいと考えています。そのためには、現団員の力が不可欠です。団員全員が、妻であり、母であり、職業人でもあります。そんな様々な立場で日常生活を送っている私たち女性ならではの視点で、地域の役に立てるよう、消防団員になった時の気持ちを今後も忘れずに活動を継続していけるように一致団結して努力していきたいと思います。これからも団員一人ひとりが「自分ができること、私たちができること」を追求し、ご指導をいただきながらチームワークで一歩一歩進んでいきたいと思います。

笑顔あふれる地域、女性消防団を目指して！！

ひまわり通信

シンフォニー（長崎県）

「地域のためにできること」

長崎県波佐見町消防団　女性消防団員
尾崎　絵里子

本町は長崎県のほぼ中央に位置し、西は佐世保市、南は川棚町、東は佐賀県武雄市、嬉野市に、北は佐賀県有田町に接しています。長崎県内でも海に面していない唯一の町でもあります。人口は、約15,000人、400年の伝統をもつ全国屈指の「やきものの町」として栄え、現在は全国の一般家庭で使われている日用食器の約13%が波佐見町で生産されています。

毎年、４・５月の大型連休に開催されている「はさみ陶器まつり」には全国から多くのお客様に来場いただき、大いに盛り上がります。自然豊かな陶器と緑のまち波佐見町へぜひ一度お越し下さい！！

現在、波佐見町消防団は９つの分団、総勢326名（定員330名）で構成されています。私達女性消防団員は平成21年12月に結成され、現在は６名が在籍しており、団員の平均年齢は28.8歳と若く、メンバーも会社勤務、自営業、町職員と様々です。それぞれ仕事で忙しいですが、仕事の合間を縫って、活動を行っています。

女性消防団員は、主に出初式を始め各種イベントの補助や火災予防啓発活動及び広報活動を行っています。その他にも、消防団員としての基本となる礼式訓練なども積極的に参加しています。本町の消防出初式の際には、本部分団の男性消防団員と一緒に、地域住民や消防関係者の皆様の前で訓練披露を行いました。厳粛な雰囲気の中で行われる訓練披露は緊張しますが、消防団員としての意識を再確認できるよい機会となっています。

啓発活動

昨年度は、佐世保市消防局東消防署波佐見出張所のご協力をいただき、AEDの操作方法

など基礎的な救命講習を実施しました。AEDに触れるのは初めての経験でしたが、AEDの操作方法や実際に救命を要する際の心構えなどを学ぶことができました。

平成25年度は、応急手当普及員講習を受講しました。近隣の川棚町、東彼杵町の女性消防団も一緒に受講し、人工呼吸や心肺蘇生法を学びました。実技演習として、特に心臓マッサージを行いました。心臓マッサージは正しい姿勢で行わないとすぐに腕が疲れてしまうので、最初の頃は力が入り過ぎて、腕や肩を痛めながら行っていましたが、教官の細かな指導のもと何度も練習しながら、最後は全員正しく行えるようになりました。このような経験をしたことで、実際の現場で一人が繰り返し行うのはとても大変だと実感しました。一人でも多くの人が心配蘇生法を行えるように普及活動ができたらよいと思っています。

また、今年度は、10月17日に横浜市で開催されました全国女性消防団員操法大会の視察を行いました。全国の女性消防団の代表が集まった大会は壮観で、全国各地で多くの女性消防団が活躍しているのだと実感できました。長崎県の代表の新上五島町女性消防隊は、９ヶ月間、週３回に及ぶ訓練の成果を発揮し、上位の成績を収められました。各地の代表が行う操法は、ひとつひとつの動作が機敏で、どの代表も訓練を多く積んだことが伺えました。

女性消防団が結成されて４年目を迎えますが、私たちは消防団員として駆け出しであり消防関係者の皆様をはじめ、地域の方々のご指導をいただきながら、活動を行っております。皆様への感謝の気持ちを忘れず、これからも明るく、元気に私たちなりの女性消防団活動を行い、地域の方々が安全で安心して暮らせる環境づくりに微力でありますが、貢献していければと思います。

応急手当普及員講習

消防団活動事例

「昭島市消防団 消防署隊と連携した危険物火災対応訓練の実施」

昭島市消防団　団長　小山　雅生

１．昭島市の紹介

昭島市は、都心から西に約35㎞、東京都のほぼ中央に位置し、面積17.33㎢、人口は11万人を超え、多摩地区の中核的な都市として発展をしています。昭和29年５月１日、北多摩郡昭和町と拝島村が合併し、東京都で７番目の市として誕生しました。

昭和36年の夏、市南域を流れる多摩川河川敷でクジラの化石が発見されたことから、毎年８月上旬に「昭島くじら祭」が盛大に開催されています。また、昭島市は、豊富な地下水に恵まれ、東京都の区市町村において唯一深層地下水のみを水道水源としています。昭島市の水はおいしい水なので、昭島市に来られた際には、是非ご賞味ください。

２．昭島市消防団の沿革

昭和29年５月１日、昭島市の誕生に伴い昭和町消防団と拝島村消防団は、それぞれ昭島市東部消防団、昭島市西部消防団として、20箇分団、団員410名で発足。その後、昭和33年４月１日、発展的に統合され、12箇分団、団員245名をもって昭島市消防団と改称されました。昭和35年４月１日、現在の礎である１団本部及び４箇分団の組織体系となりました。

現在、団員89名（女性団員６名）が「自分たちのまちは自分たちで守る」の精神のもと、市民の生命と財産を守るため、昼夜の訓練に励み、昭島市の「安全・安心なまちづくり」の一翼を担い、地域社会の防火防災活動の中核として活躍しています。

３．消防団の化学消防ポンプ車について

昭島市消防団第三分団には、昭和45年から化学消防ポンプ車が配備され、現在の車両で四代目となります。現車両への更新の際、当時、私は第三分団長でしたので分団員と事務局と協議したことが記憶に新しいところです。第三分団は、昭島市が米軍横田基地に隣接していることから、航空機火災やタンクローリー火災が懸念され、消防相互応援協定により、基地内への出場指定を受けている危険物火災にも対応した消防団部隊です。なお、消防団における化学消防ポンプ車の配備は、大変めずらしく全国でも３台しかないと聞いております。

【第三分団化学消防ポンプ車概要】

配置年月	平成18年11月（第四代）
車両型式	日野レンジャー　ADG－FDJEWA改
ポンプ型式	A２級　インラインプロポーショナー混合方式
積載水	1,000L
積載薬剤	300L
付属品等	400型泡ノズル・耐熱服２着 軽量ホースカー・三連はしご（アルミ製）

４．消防署隊との連携訓練

きっかけは、分団長会議において第三分団長から進言のあった「泡だし訓練の実施をお願いします。」

でした。昭島市消防団における危険物火災対応訓練は、市内の工場跡地等を借用して実施しており、平成18年を最後に訓練後の泡処理等の関係から訓練実施場所の確保が困難となり、約７年間にわたり発泡訓練を行うことができませんでした。この様ななか、発泡訓練の経験者であるベテラン団員の多くが退団し、世代交代の時期を迎え、化学消防ポンプ車の運用や危険物火災訓練を経験したことのない若い団員が増えたことにより、「団員自らが危機感を持ったこと」、「更なるレベルアップが必要である」と感じたことから、強い要望が声となって上がったのでしょう。訓練の実施場所におきましては、市内で適地を見つけることは困難であったため、昭島消防署のお骨折りにより、東京消防庁関係職員のご協力をいただくなかで、東京消防庁の発泡訓練場所である東京消防庁第二消防方面訓練場をお借りすることができました。

今回の危険物火災連携訓練の実施にあたり、危険物火災の特性や対応、消防活動安全管理要領等の基礎的な知識の習得が必要不可欠であることから、全団員を対象に訓練実施前の平成25年８月13日（火）午後７時から事前教養として、昭島消防署警防課防災安全係長から危険物火災の概要について、座学の講義を実施しました。災害発生時の状況写真やイラスト等を数多く用いていただき、非常にわかりやすくとても勉強になりました。参加した団員は熱心に耳を傾け、資料にメモを取るなど真剣に取り組んでいました。

【危険物火災対応訓練概要】

(1) 実施年月日
平成25年８月31日（土）９時00分～12時00分まで

(2) 実施場所
東京消防庁　第二消防方面訓練場（東京都大田区京浜島１－１－４）

(3) 訓練出向車両
昭島市消防団第三分団化学消防ポンプ車
昭島消防署消防ポンプ車
広報車

(4) 参加人員
昭島市消防団　32名
（団本部３名、第一分団５名、第二分団５名、第三分団14名、第四分団５名）
昭島消防署　　５名

(5) 訓練指導者
東京消防庁　昭島消防署警防課長

(6) 訓練内容
①化学消防ポンプ車上部の放水銃からの泡放射訓練
②消防ホース延長による泡ノズルからの泡放射訓練
③ピックアップ式泡ノズルによる泡放射訓練
※訓練については、上記三つのパートに分け、実施時間を変え行いました。

訓練当日、参加した団員は、このような設備の整った訓練施設の中で泡放射を実施できたのは初めての体験でもあり、各種訓練に対しては事前に講義していただいた危険物火災に対するイメージを持ちながら積極的に熱意を持って取り組んでいました。

①化学消防ポンプ車上部の放水銃からの泡放射訓練は、今回の訓練にあたり重点と考えられる機関運用です。ベテラン団員と昭島消防署員の指導のもと、若い団員達への泡放射に必要な車両の操作要領等の習熟を目的としました。先に手本としてベテラン団員が車両の操作を行い、見事に放水銃から泡放射をすることができました。次に若い団員へ順次交代して行いましたが、初めて経験する機械操作に戸惑いながら

も先輩団員の指導のもと無事泡放射する事ができました。薬液の濃度設定を３％～６％まで調節しての泡の状態の確認、自衛噴霧の放射など大変有意義な体験ができたと思います。この貴重な経験を決して忘れずに覚えておいてほしいと思います。

②消防ホース延長による泡ノズルからの泡放射訓練では、筒先担当の団員には火災出動時に着用する防火衣と違って、普段着用する機会のない耐熱服を着装して、猛暑のなか泡放射を行うことの大変さを体感いたしました。

③ピックアップ式泡ノズルによる泡放射訓練では、他の若い分団員が泡放射を経験、筒先にかかる泡放射圧にかなり驚いた様子に対し、ベテラン団員から激が飛ぶといった光景は、今までの訓練では無かったことであり、団員達の訓練に対する真剣さが伝わってまいりました。

今回の訓練では、車両積載薬剤と薬液缶はすべて空になるまで存分に泡放射訓練が実施できたことから、消防活動能力及び知識の向上に繋がり、団員の士気を高め、団員間の連携をも深めた実践的な訓練を行うことができました。また、猛暑のなかでの訓練でしたが、誰一人不調を訴える団員も出ず無事終え、帰路の車中では「団長、またこの訓練をやりましょう！」と意気揚々と話す団員たちが非常に頼もしく思えました。

５．おわりに

今回の訓練は、若い団員に対する経験や習熟が目的でもあり、少人数での訓練実施となりましたが、昭島市消防団の一段の技術力向上を図ることができました。あわせて、消防署隊のポンプ車と消防団化学消防ポンプ車の連携訓練を兼ねて実施したこともあり、消防署隊と消防団の結束がさらに強まり、今まで以上の連帯感を築きあげることができ、地域防災力の更なる向上に繋がったことと言えるでしょう。今後も定期的にこの様な訓練を実施してまいりたいと考えております。

本訓練の実施にあたり、ご支援、ご協力を賜りました東京消防庁の関係職員の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。

私たち昭島市消防団は、「自分たちのまちは自分たちで守る」の精神のもと、これからも地域を守るため積極的な活動を行ってまいります。

平成25年秋の褒章（消防関係）

総務省消防庁

平成25年秋の褒章（消防関係）受章者は、88名で褒章別内訳は次のとおりです。

紅綬褒章１名　　黄綬褒章７名　　藍綬褒章 80名　　計 88名

受章者のうち、

① 紅綬褒章は、災害現場等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した者

② 黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した者

③ 藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した者を対象としています。

○ 伝達式日程

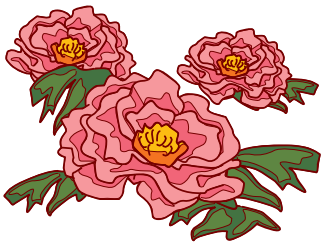
1 日 時 11月13日（水）11時15分~11時45分

2 場 所 スクワール麹町３階「錦華」の間

平成25年秋の褒章受章者（消防関係）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
藍綬	北海道	現 北見地区消防組合置戸消防団 副団長	木村茂廣（62）
藍綬	北海道	現 網走地区消防組合女満別消防団 分団長	南部信（64）
藍綬	青森県	現 大間町消防団 分団長	竹内勝雄（62）
藍綬	青森県	現 平川市消防団 副団長	八木橋清隆（60）
藍綬	山形県	現 米沢市消防団 副団長	國井保男（61）
藍綬	山形県	現 鶴岡市消防団 副団長	畠山健（53）
藍綬	福島県	現 本宮市消防団 団長	國分良修（56）
藍綬	福島県	現 相馬市消防団 分団長	佐藤良夫（65）
藍綬	福島県	現 白河市消防団 副団長	鈴木肇（62）
藍綬	福島県	現 三春町消防団 団長	橋本善次（63）
藍綬	茨城県	現 坂東市消防団 団長	相野谷和明（66）
藍綬	茨城県	現 境町消防団 団長	金久保恒夫（66）
藍綬	茨城県	現 河内町消防団 団長	平川和文（60）
藍綬	栃木県	現 栃木市消防団 副団長	臼井誠（54）
藍綬	栃木県	現 那須塩原市黒磯消防団 副団長	薄井正裕（57）
藍綬	群馬県	現 高崎市消防団 副団長	関口照文（58）
藍綬	群馬県	現 高崎市消防団 副団長	前川治久（62）
藍綬	千葉県	現 松戸市消防団 副団長	榎本道雄（63）
藍綬	千葉県	現 船橋市消防団 団長	渡辺義博（61）
紅綬	東京都	人命救助者	國吉正男（61）
藍綬	東京都	現 蒲田消防団 副団長	東敏明（69）
藍綬	東京都	現 芝消防団 副団長	櫻井泉（62）
藍綬	東京都	現 石神井消防団 副団長	杉森健二（61）
藍綬	東京都	現 池袋消防団 分団長	関田利次（71）
藍綬	東京都	現 京橋消防団 団長	田中久勇（73）
藍綬	東京都	現 日本橋消防団 分団長	富成淳一（71）
藍綬	東京都	現 東大和市消防団 団長	中澤安成（52）
藍綬	東京都	現 小石川消防団 副団長	中山茂夫（63）
藍綬	東京都	現 小岩消防団 分団長	松尾公一（64）
藍綬	東京都	現 田園調布消防団 副団長	八巻忠重（69）
藍綬	東京都	現 四谷消防団 副団長	山田章（60）
藍綬	東京都	現 江戸川消防団 副団長	渡邉辰雄（61）
藍綬	神奈川県	現 横浜市神奈川消防団 分団長	上野豊（69）
藍綬	神奈川県	現 川崎市中原消防団 副団長	小島光儀（63）
藍綬	神奈川県	現 川崎市臨港消防団 分団長	高橋正明（62）
藍綬	神奈川県	現 横浜市金沢消防団 副団長	永島潔（70）
藍綬	神奈川県	現 横須賀市消防団 副団長	野田忠勇（73）
藍綬	神奈川県	現 横浜市栄消防団 分団長	米山榮太郎（66）
藍綬	富山県	現 南砺市消防団 副団長	野原哲二（63）
藍綬	福井県	現 南越消防組合越前市消防団 副団長	上木一正（67）
藍綬	福井県	現 嶺北消防組合坂井消防団 団長	松本富勇（65）
藍綬	山梨県	元 甲府市消防団 副団長	中沢一樹（64）
藍綬	岐阜県	現 輪之内町消防団 副団長	久保正和（62）
藍綬	岐阜県	現 川辺町消防団 団長	佐伯正己（58）
藍綬	岐阜県	現 瑞浪市消防団 副団長	成瀬修（61）
藍綬	岐阜県	現 笠松町消防団 副団長	日比野照夫（62）
藍綬	岐阜県	現 飛騨市消防団 副団長	政木茂（63）
藍綬	岐阜県	現 本巣市消防団 団長	若原久稔（56）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　　名（年齢）
藍　綬	愛　知　県	現　名古屋市榎消防団 団長	伊藤晴雄（67）
藍　綬	愛　知　県	現　名古屋市大磯消防団 団長	鈴木弘明（77）
藍　綬	愛　知　県	現　名古屋市六郷北消防団 団長	水野謙治（71）
藍　綬	三　重　県	現　四日市市消防団 分団長	山川政夫（73）
藍　綬	三　重　県	現　名張市消防団 副団長	山﨑　茂（59）
藍　綬	滋　賀　県	現　甲賀市消防団 副団長	奥田琢也（56）
藍　綬	滋　賀　県	現　近江八幡市消防団 分団長	西　孫司（62）
藍　綬	京　都　府	現　井手町消防団 副団長	阿辻康雄（52）
藍　綬	京　都　府	現　木津川市消防団 団長	藤原　茂（56）
藍　綬	大　阪　府	現　阪南市消防団 団長	北野竹次（63）
藍　綬	大　阪　府	現　大東市消防団 副団長	戸野谷益之（55）
藍　綬	大　阪　府	現　富田林市消防団 団長	二口勝之（72）
藍　綬	大　阪　府	現　枚方市消防団 分団長	村田誠二（61）
藍　綬	大　阪　府	現　四條畷市消防団 副団長	山本道隆（63）
藍　綬	大　阪　府	現　河南町消防団 分団長	吉川徹夫（58）
藍　綬	兵　庫　県	現　姫路市家島町消防団 団長	上田辰雄（61）
藍　綬	兵　庫　県	現　神戸市須磨消防団 団長	高木優和（64）
藍　綬	奈　良　県	現　御所市消防団 分団長	亀谷隆夫（65）
藍　綬	奈　良　県	現　五條市消防団 団長	櫻井利文（65）
藍　綬	鳥　取　県	現　琴浦町消防団 団長	門脇正人（65）
藍　綬	鳥　取　県	現　大山町消防団 団長	金田敏彦（67）
藍　綬	岡　山　県	現　久米南町消防団 団長	光元一郎（56）
藍　綬	愛　媛　県	現　今治市消防団 分団長	新居田浩一（58）
藍　綬	福　岡　県	現　桂川町消防団 団長	梶嶋英二（66）
藍　綬	福　岡　県	現　飯塚市消防団 副団長	楠　茂（73）
藍　綬	福　岡　県	現　那珂川町消防団 団長	永田仁明（64）
藍　綬	福　岡　県	現　岡垣町消防団 副団長	松本哲夫（63）
藍　綬	熊　本　県	現　熊本市消防団 副団長	宮田新一（67）
藍　綬	熊　本　県	現　熊本市消防団 副団長	山本誠治（52）
藍　綬	宮　崎　県	現　川南町消防団 団長	網代宗章（61）
藍　綬	宮　崎　県	現　宮崎市消防団 副団長	渡部道男（54）
黄　綬	福　島　県	現　トーアン㈱ 会長	神事　護（70）
黄　綬	東　京　都	現　日進工業㈱ 取締役	木下　勲（70）
黄　綬	静　岡　県	現　㈱日本防火研究所 代表取締役社長	市川章一（64）
黄　綬	茨　城　県	現　日立綜合防災㈱ 代表取締役	瀬谷利雄（65）
黄　綬	東　京　都	現　㈱ススム防災 代表取締役	進藤　孝（67）
黄　綬	和歌山県	現　㈲志賀野設備 代表取締役	土井　深（64）
黄　綬	徳　島　県	現　徳島防災㈱ 代表取締役	鶴田勝重（57）
藍　綬	岩　手　県	現　岩手県婦人消防連絡協議会 会長	千葉ときこ（63）
藍　綬	山　形　県	現　山形県婦人防火クラブ連絡協議会 会長	五十嵐雪子（68）



婦人（女性）防火クラブ活動の紹介と参加の呼びかけ

総務省　消防庁　防災課

婦人（女性）防火クラブは、家庭での火災予防の知識の習得、地域全体の防火意識の高揚などを目的に地域で活動している組織です。平成24年４月１日現在、全国各地で１万134団体、約152万人のクラブ員の皆さんが活動されています。

婦人（女性）防火クラブの活動

婦人（女性）防火クラブの主な活動の一つが火災予防の取組です。地域住民や児童・生徒などに対する火災予防知識や防炎製品の普及啓発をはじめ、消火器取扱訓練などの実演を通して火災予防技術の向上に貢献しています。特に住宅用火災警報器の設置では、イベントを通じた呼びかけや、地域で住宅用火災警報器を共同購入するなど、積極的な設置促進活動が実施されています。

そのほか、地域の防災に関する取組においても幅広い活動が行われています。平常時は、地震時の家具転倒防止に関する知識の普及啓発、応急救護訓練の実施、消防団等と連携した地域の防災訓練への参加等が行われています。

また、災害時には、災害情報の収集、住民への迅速な伝達、避難誘導、避難所における炊き出し支援等が実施されており、家庭や地域の防災力向上に大きく貢献しています。東日本大震災においても、避難所における炊き出し支援や、被災地への義援金・支援物資の提供等の支援活動が各地のクラブにより行われました。

また、災害発生時の避難などの際に支援が必要となる災害時要援護者に配慮した地域づくりの一環として、災害時要援護者宅への日常の家庭訪問による防災点検や、災害時の避難誘導（そのための日頃からの訓練）なども実施されています。こうした活動は地域コミュニティの活性化にもつながり、婦人（女性）防火クラブの皆さんの知識やネットワークを活かした災害時要援護者への支援活動に対する期待はますます高まっています。

住宅用火災警報器設置促進の街頭PR
〔写真提供：栃木県足利市婦人防火クラブ連絡協議会〕

連携によるメリット

婦人（女性）防火クラブの活動は、他のクラブ・組織との連携や情報交換により一層の充実が期待できます。

現在、42道府県で婦人（女性）防火クラブの連絡協議会が設立されており、クラブ間の意見交換や合同研修など交流が行われています。また、同様に地域防災を担う消防団や自主防災組織、民生委員や社会福祉団体などの地域の関係機関・団体との連携を深めることも重要です。合同での防火・防災訓練や意見交換の場を持つなど、日頃から顔の見える関係づくりを行うことで、災害時にスムーズな協力体制の構築が期待できます。

活動の活性化に向けて

婦人（女性）防火クラブは地域の防火・防災を担う重要な役割を担っていますが、クラブ員は近年減少傾向にあり、その活性化が求められています。火災や災害といった緊急時に、地域に根差した女性の方々の災害対応活動が非常に大きな力となります。

「自分たちの地域は自分たちで守る」という信念と連帯意識の下、火災や災害に強い安心・安全なまちづくりのため、より多くの方々に婦人（女性）防火クラブ活動に積極的に参加していただきたいと思います。

東日本大震災に伴う救援物資の仕分けボランティア
〔写真提供：栃木県足利市婦人防火クラブ連絡協議会〕

問合わせ先
消防庁国民保護・防災部防災課　地域防災係　松澤、中村
TEL：03-5253-7525

西東京消防少年団　高齢者施設を慰問

西東京消防署　防災安全係　山﨑　里美

西東京消防少年団（団長小林孝一）は、敬老の日を前に、管内にある老人ホーム「まどか西武柳沢」（西東京市保谷町）と「アミーユレジデンス西東京」（西東京市中町）を訪問しました。はじめに、もやい結びや節結びなどの結索法を披露したところ、毎月の活動で訓練に励んでいたこともあって、てきぱきと結索を作り、元気な「よし！」のかけ声をかけることができました。団員達のはつらつとした姿に、お年寄りの皆さんからは感心の拍手をいただきました。その後は、皆で一緒に「故郷」や「幸せなら手をたたこう」を歌ったり、折り紙や風船ゲームで楽しい時間を過ごしました。最初は、緊張のあまり無口になる団員もいましたが、時間が経つにつれ、笑顔があふれるようになり、お年寄りの皆さんもとても楽しんでくれている様子でした。最後に千代紙を折って作ったカードに、団員が心をこめて書いたメッセージカードをプレゼントし、「いつまでも元気で長生きしてください」と挨拶をしたところ、涙を流して喜んでくださる方もいらっしゃいました。

頑張れ！少年消防クラブ

No.67　磐田市立豊岡南小学校少年消防クラブ（静岡県）

活動から学んだ貴重な経験

磐田市立豊岡南小学校少年消防クラブ

当クラブが活動している磐田市は、人口約170,000人で静岡県西部の天竜川東岸に位置し、当市の北部は丘陵地、南部は平野が広がり遠州灘に面しています。当クラブは、昭和56年４月３日に結成され、32年の歴史があります。昨年度は21名のクラブ員で構成されました。小学４年生から６年生までの男女を含めた児童達が、年間約８回、授業を終えた後の課外クラブ活動として防火・防災の意識向上を目指し活動しています。主な活動内容としては、活動計画作成（指導担当教諭の助言を受けクラブ員が立案し年間計画を作成する）、防火ポスターの作成（防火の普及）、ロープワーク（ロープの結び方等を学習する）、花火教室（花火の安全で正しい遊び方を学習し、注意喚起する）、煙体験（煙中の避難訓練とともに煙の怖さを学習する）、消火器の取扱い訓練（消火器の取扱い訓練により初期消火の方法を学習するとともに、火災予防の大切さを学習する）、ＡＥＤ・救急法（消防職員の指導によりＡＥＤ及び救急法を実践し緊急時の対応を学習するとともに、消防の仕事について学習する）、反省会（年間の活動を振り返り次年度の参考とする）などの活動をしています。例年の活動の他に、火災の時（着衣着火）の対応として、アメリカ式防災教育プログラム（ストップ・ドロップ・ロール！）を実践いたしました。また2013年３月の春季全国火災予防運動期間中に、住宅用火災警報器の設置点検キャンペーンとして、校内放送で全校児童へ住宅用火災警報器の早期の設置及び点検の呼びかけをしました。１年間の活動をとおして、防火・防災の大切さを体験しながら楽しく学ぶことができました。今後も様々な活動をとおして防火･防災への意識を高め、学校を始めとして地域や家庭に普及していくことを願っています。

平成25年度
防火ポスターコンクール審査結果

生活協同組合　全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では毎年、小学校４年生から中学生を対象とした防火ポスターコンクールを行っております。

今年度も各都道府県の支部から選出された作品について、一次審査及び二次審査を行い、最優秀作品に佐賀市立鍋島中学校３年池田知恵さんの作品が選ばれました。

最優秀作品については平成25年度全国統一防火標語「消すまでは　心の警報　ONのまま」を掲載し、11月９日から行われる秋の全国火災予防運動にあわせて防火ポスターとして全国に配布しました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

平成25年度防火ポスター

最優秀賞
佐賀県　佐賀市立鍋島中学校　３年　池田　知恵さん

平成25年度防火ポスターコンクール審査結果一覧

最優秀賞（１名）

佐賀県	佐賀市立鍋島中学校	３年	池　田　知　恵さん

優 秀 賞（２名）

宮城県	大河原町立大河原小学校	５年	大　宮　和　奏さん
岐阜県	大垣市立星和中学校	３年	白　﨑　茉　奈さん

佳　　作（８名）

北海道	池田町立池田中学校	３年	坂　田　　空さん
岩手県	久慈市立夏井小学校	４年	野　田　知　里さん
福島県	福島市立西信中学校	１年	加　藤　凪海香さん
埼玉県	三郷市立吹上小学校	５年	吉　田　和　馬さん
新潟県	柏崎市立東中学校	２年	吉　野　萌　花さん
兵庫県	洲本市立青雲中学校	２年	田　中　伶　奈さん
和歌山県	日高川町立丹生中学校	２年	井　邊　晶　也さん
香川県	綾川町立綾南中学校	２年	地　下　智　哉さん

優秀賞

宮城県大河原町立大河原小学校
５年　大宮　和奏さん

岐阜県大垣市立星和中学校
３年　白﨑　茉奈さん

消防団120年特別企画
「大日本消防」表紙絵

㈶日本消防協会

発　行：昭和４年３月
　　第３巻第３號
題　名：「薔　　薇」
筆　者：和　田　英　作
　　（わだえいさく）
明治７年12月23日生まれ
昭和18年　文化勲章受章
代表作に「憲法発布式」「渡頭の夕暮」など

発　行：昭和４年４月
　　第３巻第４號
題　名：「若　　葉」
筆　者：小　堀　鞆　音
　　（こぼりともと）
文久４年２月19日生まれ
東京美術学校（現東京芸大）の教授
代表作に「宇治橋合戦」「武士」など

発　行：昭和４年５月
　　第３巻第５號
題　名：「ライラック」
筆　者：南　　薫　造
　　（みなみくんぞう）
明治16年７月21日生まれ
東京美術学校（現東京芸大）の教授
代表作に「少女」「坐せる女」など

発　行：昭和４年６月
　　第３巻第６號
題　名：「初　　夏」
筆　者：蔦　谷　龍　岬
　　（つたやりゅうこう）
明治19年生まれ
12回文展・第３回帝展で特選受章
代表作に「静日」など

「東日本大震災で殉職した消防団員等の遺児」の修学支援のために寄付のご協力をお願いします。

(公財)消防育英会

平成23年３月11日の東日本大震災から２年８か月余がたちました。この「東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金」にご賛同いただいた多くの皆さまのご支援、ご協力により、平成23年度から平成24年度までに延べ252名の東日本大震災の奨学生に、奨学金と入学一時金を給付することができました。

今現在の奨学生は、小学生から大学生まで併せて121名であり、(公財)消防育英会は、これら遺児の健全な育成を願っております。

どうぞ、東日本大震災の奨学生のために、引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金」への寄付状況

（平成25年11月８日現在）

寄付件数	寄付金額
1,749件	405,579千円

ご寄付の方法…下記口座への振込み、現金送付、または持参でお願いします。

◎りそな銀行（金融機関コード　0010）・東京公務部（支店コード　295）

普通預金　0078466

東日本大震災消防育英基金（ヒガシニホンダイシンサイショウボウイクエイキキン）

◎ゆうちょ銀行

口座記号番号　00160－4－418360

加入者名　　東日本大震災消防育英基金

※ (公財)消防育英会へのご寄付は税優遇措置の対象となります。

◇◇◇

うちの名物団員

奈良県

広陵町消防団　第１分団　分団長

山口　博茂

山口分団長は昭和60年に入団し、消防団歴は28年です。日頃は第１分団を率いる分団長として、頼りになる存在です。

ガソリンスタンドを経営する傍ら、趣味の車道楽にも熱い男です。愛車はランボルギニー・アニバーサリー最終型で、休日には仲間と共にツーリングに出かけているそうです。最近では淡路島の方まで足を伸ばしたそうです。

普段の足としての車はベンツのゲレンデで爽快に走っています。

持ち前の瞬発力も消防団活動に生かされ、団員の信望も厚く、地域の安全と発展のために日々努力しておられます。今後も益々の活躍が期待されています。

富山県

黒部市消防団　下立分団　部長兼ラッパ隊長

柳原　博英

女性消防団員

柳原　智子

夫婦で団員をされている柳原夫婦を紹介します。

夫の博英さんは、平成元年に黒部市消防団下立分団に入団され今年で25年目を迎えます。平成18年にはラッパ隊の隊長に就任され出初式や消防演習などでラッパ隊の指揮を振るってこられました。妻の智子さんは、黒部市消防団女性消防団員が発足した平成18年当初から活動されています。黒部峡谷鉄道㈱に勤務され、日々乗客の方々の安全に努めています。智子さんは応急手当普及員の資格を取得され救命講習に参加され指導しています。これからも柳原夫婦の活躍が期待されます。

東京都

大森消防団　第３分団　分団長

木村　年伸

入団20年目の55歳、30歳から地元チームで本格的に野球を始めエースとして活躍している木村分団長。野球の練習で始めたランニングを糧に2011年東京マラソンで初めてフルマラソンに挑戦、３時間47分の見事なタイムでゴールしたものの30キロから足が痙攣を起こして辛く長く、そのトラウマが消えてまた走りたい、走ろうとなるまで３年。そして2014年東京マラソンに応募し当選率10倍の貴重な切符を手にしました。大会当日は、警戒に当たっている消防団員を始め多くの方々に感謝し、その声援に応えるためにも３時間30分台を目指しガンバルと決意しています。

熊本県

２番員が山川里子さん

天草市消防団　女性消防隊　団員

山川　里子

天草市は、熊本県南西部に位置し、周囲を藍く美しい海に囲まれた天草上島と天草下島及び御所浦島などで構成する天草諸島の中心部に位置しています。

今回紹介する山川里子さんは、天草市役所に勤務し広報担当として活躍する傍ら、平成19年10月の入団以来、独居老人宅訪問などの火災予防啓発を通じて、地域の安心安全に貢献されています。

また、熊本県女性消防操法大会にも３大会連続で出場し、隊員の信頼も厚く、天草市消防団女性消防隊の中心として活躍されています。

鳥取県

若桜町消防団　第２分団警備班長

中島　敬之

中島敬之さんは創業104年の老舗「太田酒造場」の杜氏さんです。中島さんのこだわりは、自分で育てたお米と豊かな自然に育まれた美味しい水でお酒を造ることです。ふくよかでコクの深い純米酒は燗あがりする（燗をするといっそううまくなる）お酒と評判です。

日夜地域の安全安心のために貢献し、消防ポンプ操法大会に２番員として出場するなど積極的に活動されています。また、後輩の指導にも熱心で頼もしい班長さんです。

山口県

柳井市消防団　団長

岡崎　末男

皆さん、「甚句」ってご存じですか？「甚句」とは、日本の伝統的な歌謡の一形式で、大相撲の巡業の際に力士５～７人が土俵に上がって輪になって立ち、その輪の中央で１人が独唱する「相撲甚句」が有名ですよね。

岡崎団長は、その「甚句」を作るのが得意なんです！

お祝いの席では、即興で「甚句」を披露されたり、団員が退団するときには、「お別れ甚句」を作って、記念に贈られたりもします。

そんな心優しい岡崎団長ですが、今年６月に㈶山口県消防協会の副会長に就任されました。柳井市の消防はもちろんのこと、山口県全体の消防のためにも全力投球で、ますます元気いっぱいの岡崎団長です！

長崎県

松浦市消防団　副団長

志水　正信

松浦市は、人口約25,000人と小さくはありますが、水産業が盛んなまちで有名です。そこで鮮魚店を営んでいるのが志水副団長です。

毎朝早くから魚市場へ仕入れに行き、新鮮な魚をお客様へ提供するため頑張っています。

その一方で、いざ、消防団活動になると他に目を向けることなく、消防魂に火がついてしまうので、奥様の理解と協力が不可欠です。

「仕事と消防団、そして家庭と両立させるのは難しいですね。いつか家族みんなで世界一周旅行するのが夢なんですが…。入団34年目ですが、一見、ちょい悪風の外見ですが、初心を忘れず、家庭も忘れず頑張ります！！！」

消防団の広場

山口県 「星降るまち」の女性分団として

下松市消防団　女性分団
分団長
西村　久美江

下松市は山口県の南東部に位置し、南は瀬戸内海に臨んでいます。

遠い昔、松の木に遥か彼方から流れ星が降ってきて７日７夜の間光り輝いたという伝説が残っています。「星が降った松」が「降り松」となり、「下松」になったというのが地名の由来と言われています。

さて、下松市の女性消防団員は消防団本部付で1993年（平成５年）に14人を任用したのが始めで、私もその１人として平成５年から活動しています。現在に至るまで、出初式の運営、消防競技大会の運営・出場、火災予防広報活動、普通救命講習への参加などを実施してきました。

この度、平成25年４月１日、任用開始から20年目の節目に女性分団を発足し、女性分団員が自主性を持ち、迅速に対応できるようにしました。女性分団発足を機に更に気を引き締めて、女性らしい心遣い、親しみやすさなどを活かした活動を行い、下松市の「安全・安心のまちづくり」の一助になりたいと思います。

平成25年度　全国統一防火標語

「消すまでは　心の警報　ONのまま」

12月の日本消防協会関係行事

12月１日（日）～12月８日（日）　第17回消防個人年金海外視察（イタリア）
12月９日（月）　日中韓消防協会会議（韓国）

編　集　後　記

なんだかこのところ、東北パワーを感じるのは私だけでしょうか？　10 月 17 日に横浜で行われた、第 21 回全国女性消防操法大会で優勝したチームは宮城県の大和町女性消防隊でした。速かったです。詳しくはこの号をご覧ください。優勝までの道のりについても後に掲載予定ですのでご期待下さい。そしてもう一つ、東北楽天ゴールデンイーグルスが日本一になりました。操法も日本シリーズも「東北の底力」と「東北魂」を見せつけられたものでありました。

私の感想でありますが、大和町女性消防隊も楽天も、対戦相手よりも勝っていたところは「気迫」であったと感じました。前回の全国女性操法大会は、東日本大震災の影響から出場辞退せざるを得なかった東北の各県代表チーム。４ 年ぶりの出場でした。その東北から出場のチームが優勝したのです。楽天も奇跡的な田中投手の活躍等で、長かったのか短かったのかわかりませんが、創設 ９ 年でリーグを制し、日本シリーズまで進み、大方の予想を裏切って最強の巨人軍を破り、まさにこのタイミングで日本一になったことに大変意義があると思いました。大和町女性消防隊も楽天も優勝旗を東北に持ち帰り、自分たちの今出来ることで、東北に「勇気」と「力」を与えられたことに誇りを持ってこれからも活躍して欲しいです。そして私も、たとえ間接的であったとしても、その時々の自分に出来ることで東北を応援していきたいと感じたものでした。　（M・K）

購読募集

購読を希望される方は、㈶日本消防協会へお問い合わせください。

※　年間購読料（送料込）　2,388円

（問合せ先）　総務部企画担当　03－3503－1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Ｅメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六巻第十一号
平成二十五年十一月五日印刷
平成二十五年十一月十日発行
編集人　生嶋　文昭
発行所　㈶日本消防協会
東京都港区虎ノ門二―九―十六
電話　〇三（3503）一四八一（代）
印刷所
東京都文京区湯島三―二十―十二
日本印刷株式会社
電話（3833）六九七一（代）

毎月一回十日発行
平成二十五年十一月十日発行
日本消防
第六十六巻第十一号

生活協同組合　全日本消防人共済会

「火災共済金は1500倍補償」

B型火災共済

加入口数5口500円から25口2,500円まで
掛金25口2,500円で最高375万円の共済金

C型火災共済

加入口数最高200口20,000円まで
最高限度額掛金200口20,000円で最高3,000万の共済金
※共済への加入にあたり、組合員となっていただくための出資金が別途必要となります。

共済金のお支払い対象　B型・C型共通
火　災　共　済　金：火災、落雷、爆破・破裂
風水雪害等共済金：風災、水災、雪災、車両飛び込み、航空機墜落

所　在　地　東京都港区虎ノ門2−9−16
日本消防会館6階
連　絡　先　TEL　03-3503-1439
FAX　03-3503-1480
E-Mail:kyousaikai@nissho.or.jp
URL:http://www.nissho.or.jp

消　防　個　人　年　金

消防個人年金は、将来の自分の為の積立年金制度で、(財)日本消防協会が第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。

消防個人年金を紹介します

1 予定利率は**1.25%**です。
2 **月払、半年払、月払と半年払の併用**から払い込み方法をご選択頂き、**掛金1万円**(ゆうちょ銀行は5千円)からご加入頂けます。また、まとまった資金を**一時払**することもできます。
3 年金は、**年4回**で受給して頂けます。
4 **退団・退職後**も**継続**できます。

そのほか詳しくは、ホームページをご覧ください。

R100

お問い合せ先　各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会
㈶日本消防協会　〒105-0001　東京都港区虎ノ門2-9-16
TEL.(03)3503-1481（代表）
http://www.nissho.or.jp